

会社紹介資料

株式会社豆蔵



私たちについて



会社名	株式会社豆蔵 Mamezou Co.,Ltd.
本社	〒163-0434 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル 34階
名古屋支社	〒460-0022 愛知県名古屋市中区金山1丁目14番18号 A-PLACE金山5階
相模原R&Dセンター	〒252-0239 神奈川県相模原市中央区中央5丁目9-1
八王子LAB	〒192-0054 東京都八王子市小門町3-6
設立	2006年10月3日 <small>※株式会社豆蔵は、1999年11月に設立、2000年5月より事業を展開して参りましたが、株式会社豆蔵OSホールディングスを持株会社とする経営体制への移行に伴い、会社分割により2006年10月3日をもって事業会社として新たに設立いたしました。</small>
社員数	228名（2024年4月1日現在）

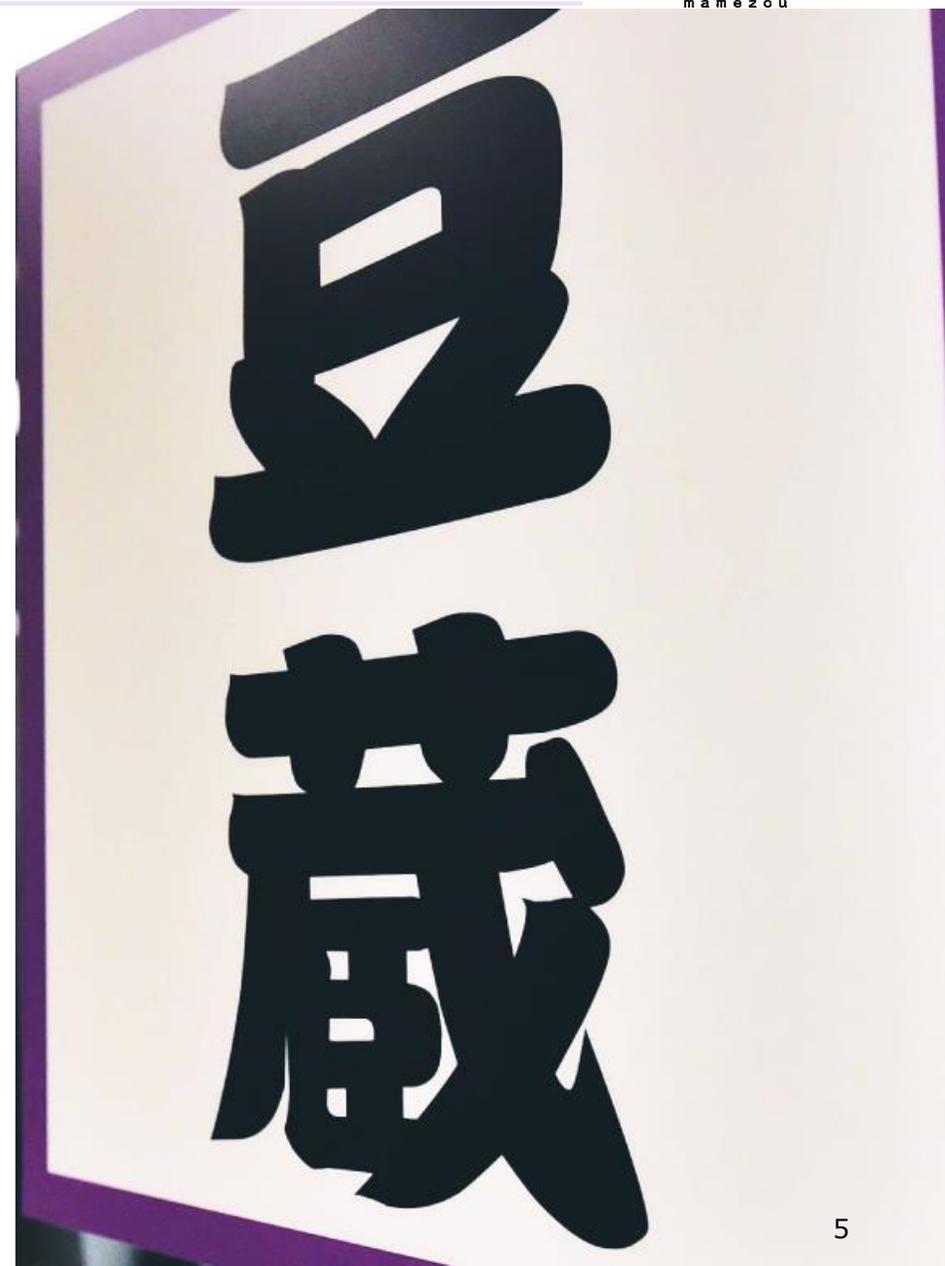
キーマッセージ

**1粒の知性が
ソフトウェアエンジニアリング
を変える。**

私たちは技術の プロフェッショナル集団

豆蔵の経営陣は「自社の成長の源泉は『技術力』」だと明確に定義しており、技術者の皆さんが成長できる環境を提供し続けることを経営課題の1つにしています。

「豆蔵」の「豆」はJava Beans（Javaにおいてデータをひとつにまとめて格納するために利用する仕組み）に由来しています。プログラミングの塊であるBeans（豆）の蔵元になりたいという思いから名付けられました。





ミッション

Mission

AIソフトウェア工学のチカラで、
共にデジタル世界を創造する

ビジョン

Vision

デジタルシフト・サービスカンパニー

社会におけるソフトウェアの存在意義が昔と異なり、期待役割が大きくなっています。

ソフトウェアを活かし、社会課題解決だけでなく、その先にあるWell-beingへも貢献したいという思いをこの理念に込めています。

- エンジニアファーストな企業風土
- マネジメントの道に進まず、エキスパートやコンサルタントでも同等に評価される
- フルリモートワーク（住んでいる場所を問わない）※ロボット開発は八王子勤務、組み込みは東海圏か関東勤務
- プライム案件比率95%（残り5%は敢えてです）
- エンジニアの成長したい方向性に合わせたプロジェクトアサイン
- 製品・サービス企画・要求定義やアーキテクチャ構築、プロセス改善等の超上流案件多数
- ソフトウェア工学に基づいた開発手法をしっかりと学べる
- 残業月10hr以下
- AWS資格フル取得で70万円以上の奨励金

こういう人にピッタリです



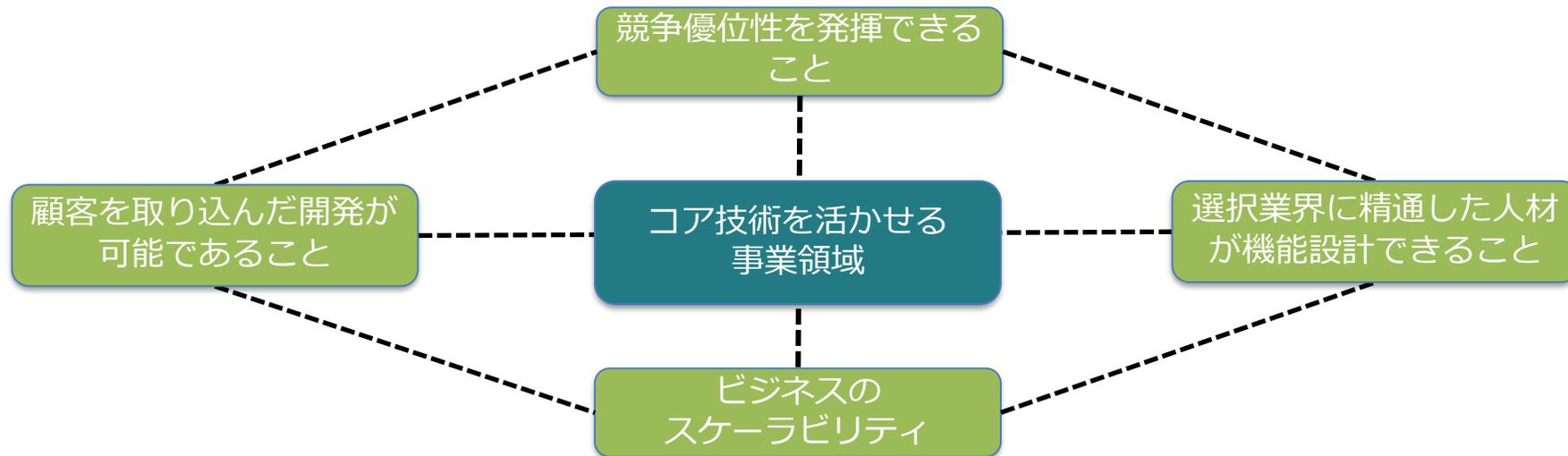
- 技術が大好き
- 新しいことをどんどん学んで取り入れていきたい
- 技術で市場価値を高めていきたい
- 自分のスキルを社会貢献に使っていきたい（研究開発だけではなく社会実装に意味があると考えられる方）

事業内容

1	<h2>クラウドコンサルティング</h2> 	<ul style="list-style-type: none">・ 内製化推進・ ソフトウェアモダナイゼーション・ クラウドネイティブアーキテクチャ策定・ クラウドERP導入
2	<h2>AIコンサルティング</h2> 	<ul style="list-style-type: none">・ DX組織変革支援・ AI開発・データ解析・データ活用基盤構築・ 生成AI導入支援・ デジタル業務改革・新規サービス創出
3	<h2>AIロボティクス・エンジニアリング</h2> 	<ul style="list-style-type: none">・ ロボティクス・エンジニアリングソリューション・ ロボット・AIによる生産性向上・工場自動化・ 製造業界向け技術戦略推進・ AIロボティクス新規ビジネス開発・ EV、ロボティクスプラットフォーム構築
4	<h2>モビリティ・オートメーション</h2> 	<ul style="list-style-type: none">・ 製造デバイスのCASE対応企画・開発・ 製造現場の自動化支援/リアルタイムデータ可視化・ ADAS車載システムコンサルティング

全セグメントを
網羅する
教育サービスを
保有

豆蔵の3つの「社会課題解決事業」



長期的な解決を目指す3つの社会課題を解決する事業の成長戦略を推進

競争力の源泉

独自のビジネスモデルとなる豆蔵Way :
AIソフトウェア・ロボット工学が技術原動力



高い技術力を有する技術集団の強い磁力

「サイエンス」に裏付けられた「エンジニアリングサービス」

サイエンス



エンジニアリング

IoTやAIによる社会のデジタル（数値）化に適應する
数理的な能力

ソフトウェア工学・ロボット工学に基づく
DX時代に見合う最新実装技術

サイエンスの科学的なアプローチ × **エンジニアリング**の合理的な業務改善・実装力
この両輪で、お客様のDXを強かに推進



活躍する博士人材（例：AI-techチーム）

人工知能・機械学習分野において、実ビジネスでの経験と先端技術を活用してより質の高いデータ分析・基盤構築サービスを提供することを目的として設立、以下のようなテーマで研究・開発を行っている

- AI の解釈性、説明可能性
- データ劣化、ドメインシフトとその対応、MLOps による取り組み
- データの数理的品質評価（データ格付け、ロバスト性評価）



コアメンバー



チームリーダー
石川 真之介
Shin-nosuke Ishikawa

東京大学大学院理学系研究科修了。博士（理学）。NASA 観測ロケットの開発、観測データ分析を実施。現在、立教大学大学院人工知能科学研究科特任教授として解釈可能AIに関する研究も行う。データ分析プロジェクト、人材開発プロジェクトで活躍。



サブリーダー
松永 和成
Kazunari Matsunaga

名古屋大学大学院理学研究科修了。博士（理学）。NASA火星探査機のデータ分析、小型地球周回衛星の計画提案を実施。製造業を中心としたデータ分析・基盤開発プロジェクト、大規模なAzureMLプロジェクトなどで活躍。



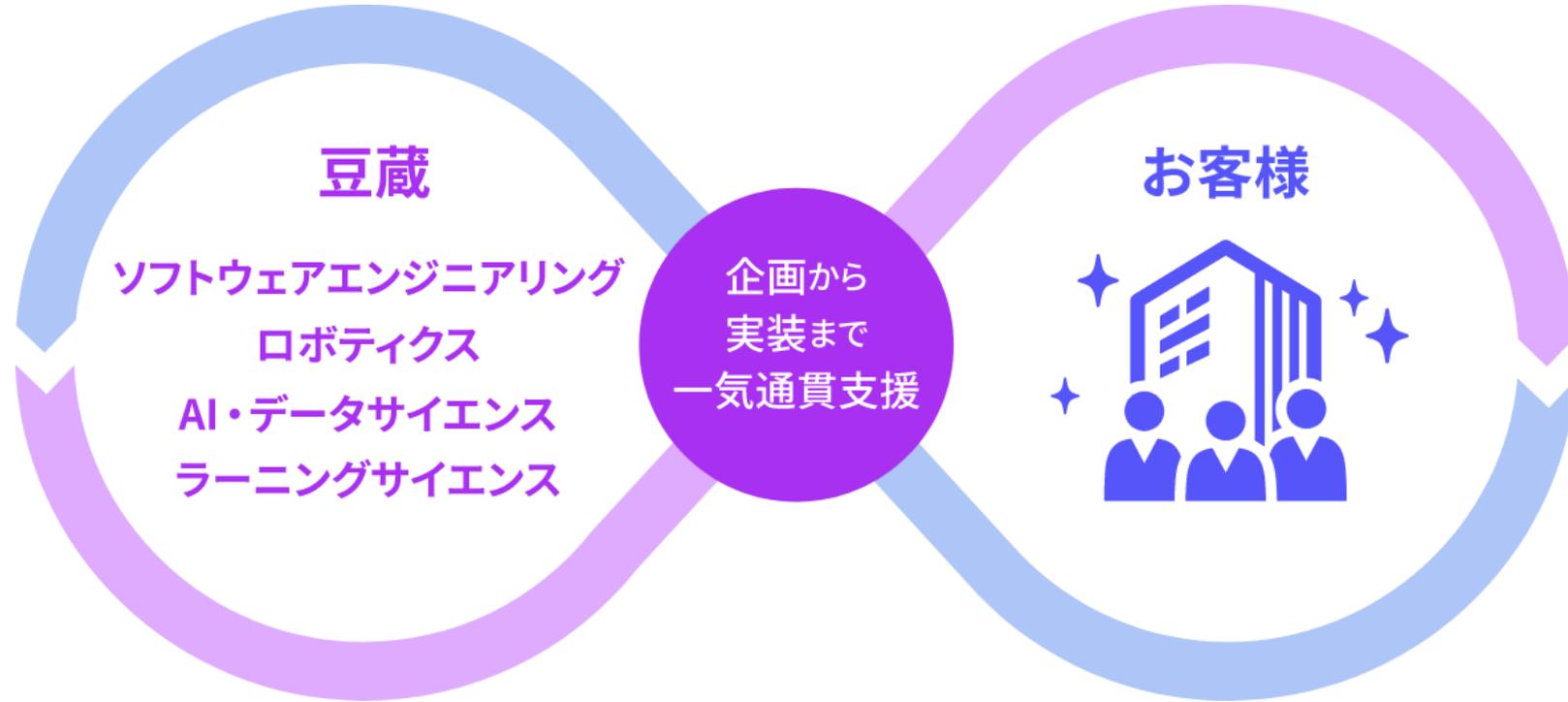
コンサルタント
藤堂 真登
Masato Todo

北海道大学理学研究科修了。博士（理学）。AIなどの数理人材開発プロジェクト、データ分析プロジェクトなどで活躍。チームでは、ドメインシフト、MLOpsの技術研究に取り組む。



コンサルタント
荻原 大樹
Taiki Ogihara

東北大学大学院理学研究科修了。博士（理学）。大規模並列計算による天体観測の擬似シミュレーションを実施。データ分析プロジェクトやAI/機械学習利活用人材育成プロジェクトなどで活躍。衛星データのビジネス適用に向けた手法開発の研究も行なっている。



ソフトウェアエンジニアリングからロボティクス、AI・データサイエンス、ラーニングサイエンスまでを網羅した独自メソッドを持ち、お客様視点でビジネスの企画から実装まで一気通貫の内製化推進ができることが豆蔵の強みです。お客様との共創の中で実現に向けた技術課題を見つけ出し、これをAIソフトウェアの力で乗り越え、お客様のまだ見ぬ新しい事業を作り出します。

技術者として成長出来る環境

評価制度

エンジニアファーストな評価制度で、定年まで技術者として成長できる

クラスランクにて評価

- クラスランクがIV以上になると、①コンサルタント②エキスパート③マネジメントの3つからキャリアを自分で選択
- 一度選択したらそれっきりでなく、ご意向に応じてキャリアチェンジが可能

どのキャリアでも給与の差はない

- どのキャリアを選んでも給与体系に差はない
- 「マネジメントとしてのキャリアを積まないと給与が上がらない」ということがない

豆蔵の特徴である「エキスパート職」

- 豆蔵では、部下をもって役職者として上がっていくキャリアだけでなく、定年まで技術者として活躍できる「エキスパート職」を用意
- エキスパートは、深く、そして幅広く技術を追求するだけでなく、クライアントが求めている課題に対してどの技術を提供するのか、その判断ロジックを高いレベルで保持している技術者を指します。



技術発信を積極的に行う風土

技術力・技術モチベーションが高い社員から、刺激を受けられる

- 豆蔵には、モデリング設計や要求分析、プロセス改善、ロボット開発、データサイエンスなどのエキスパートが在籍しており、専門書の執筆やメディアへの連載経験がある技術者が多数います。
- 技術者同士が密にやりとりする風土もあるため、わからないことや相談したいことを伝えれば、すぐに答えが返ってきます。
- 最新技術をキャッチアップするカルチャーも醸成されており、技術談義も盛んに行なわれています。

豆蔵のエキスパート（例）



エンジニアリングソリューション事業部 井上

2000年に二人目の社員として豆蔵に入社。以来、100社以上にオブジェクト指向、モデリング(UML/SysML等)、ソフトウェアエンジニアリング、システムズエンジニアリング等、様々な技術の導入コンサルティング、トレーニングを実施。2020年よりCTOに就任。



デジタル戦略支援事業部 石川

宇宙物理学の研究者として、カリフォルニア大学やJAXAなどに勤めた後、2019年4月に豆蔵に入社。豆蔵ではAIをはじめとする先端技術によるデータ活用支援及び人材育成サービスを担当。日本初の人工知能技術に特化した大学院研究科である立教大学大学院人工知能科学研究科にて特任准教授を兼務。

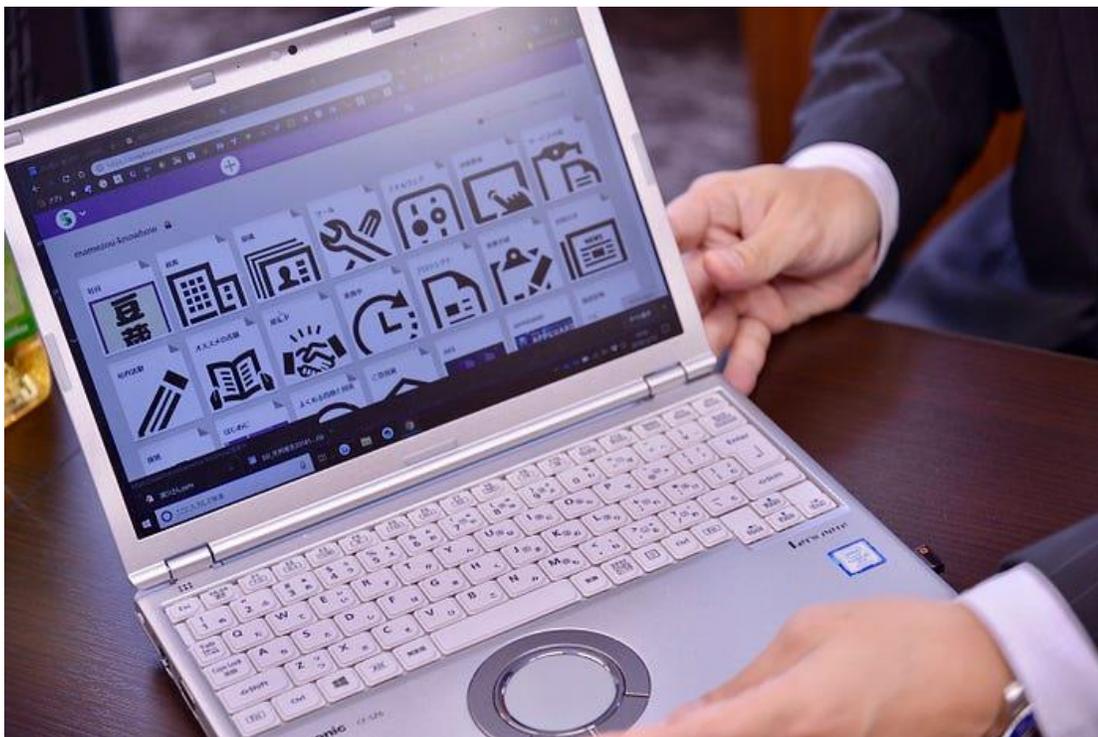


ビジネスソリューション事業部 鵜野

前職はユーザー企業のシステム開発部門にて、開発・保守に従事。利用者視点では無駄な仕様の実装を多く強いられ、根本の要求からメスを入れていかなければならないと感じ、「要求開発」という命題を掲げていた豆蔵に感銘を受けて2005年に転職。システムの企画段階から要求開発に参画し、要件定義、開発、運用支援までプレイングマネージャとしてお客様のビジネスを支援。

① Consence (旧Scrapbox) を活用した情報の共有化

- 技術に関するノウハウや、各社員が何を得意としているかというノウフーを、一元管理するためのクラウドサービスを全社展開しています。
- 新しい技術を習得するには「体系的な情報のインプット」と「理解した情報のアウトプット」が不可欠です。読み手にとってはインプットの場、書き手にとってはアウトプットの場としてこれらは活用されています。



豆蔵のScrapbox活用！コンサルタントの能動性に火をつけ
マインドチェンジを後押し
[インタビュー記事](#)



技術のスペシャリストが培った「ノウハウ」「ノウハウ」の共有化②

② 外部向けの教育サービスを自社でも活用できる

- 豆蔵の源流は、実は社外エンジニア向けの教育部門です。
- 「人材育成コンサルティング」「顧客別カスタマイズ教育」「標準教育（要求定義～テスト工程まで、ベースとなる知識を教えるカリキュラム）」の3つのサービスを提供しており、そのノウハウは社員向けの育成にも活用されています。磨き抜かれた様々な教材を、社員は自由に閲覧することが可能です。



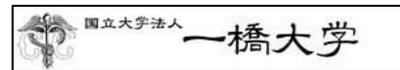
大学との連携プロジェクトで先端技術に触れることができる

- 豆蔵では数多くの大学との連携プロジェクトが立ち上がっています。AI、データサイエンス、ロボティクス、デザイン思考など、その道の研究者と接することで、最先端の研究テーマに直接触れられ、基礎的な技術を習得することができます。
- 既に連携している大学の先生にとどまらず、取り組むテーマによっては、新たな大学の連携先を開拓します。豆蔵社員に向けて大学の先生に講演いただくこともあり、様々な角度から知的好奇心を刺激されることで、技術者としての可能性は広がるでしょう。
- 博士号を取得して豆蔵にジョインし、大学の特任准教授を兼務している社員もいます。アカデミック領域の先端事例に触れながら、自身のスキルをアップデートし続けることができます。

- 産学連携（要素技術）
数理学・計算機科学・人工知能に関する要素技術について連携しています



- 産学連携（技術応用）
要素技術を実際にビジネスに応用するための技術応用についても連携しています



- 共同研究
東京農工大の遠山教授と「産業用ロボットアームの開発期間を短縮する設計手法」を1年半ほどかけて共同研究しました。



- 豆蔵が得意とするモデリングやエンジニアリングに関する書籍を中心として、豆蔵のコンサルタントは多数の書籍を出版しています。



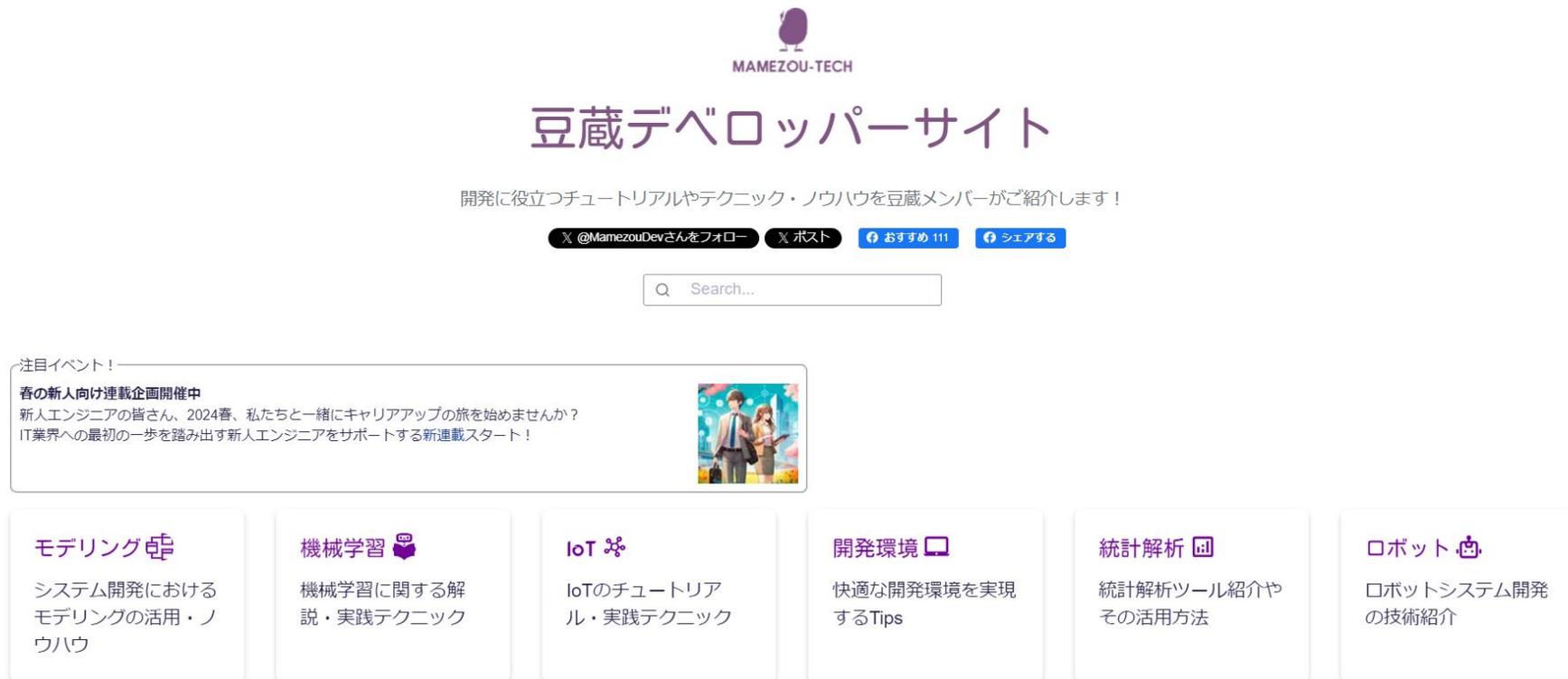
技術のスペシャリストを招いた、 オンラインイベント「豆寄席」の定期開催



- クラウドアーキテクチャの専門書籍の執筆者や、Microsoft Azureの機能実装の責任者、LINEのテストコンサルティングの指導者など、多彩な講師を招聘。
- 豆蔵のコンサルタントもアジャイル開発、データ分析、ソフトウェア工学、ロボット開発、テスト設計等、得意領域についての講演を多数行なっています。



- 技術ブログの「豆蔵デベロッパーサイト」やメインサイトの「技術情報」では、社員が最先端の技術的知見を発信しています。
- この技術発信は手を挙げれば誰でも参加が可能で、インプットした情報を気軽にアウトプットする場として提供しています。



The screenshot shows the Mamezou Developer Site interface. At the top, there is a purple header with the Mamezou logo and the text 'MAMEZOU-TECH'. Below this is the main title '豆蔵デベロッパーサイト' in a large, purple font. Underneath the title, a subtitle reads '開発に役立つチュートリアルやテクニック・ノウハウを豆蔵メンバーがご紹介します！'. There are four social media-style buttons: '@MamezouDevさんをフォロー', 'ポスト', 'おすすめ 111', and 'シェアする'. Below these is a search bar with the placeholder text 'Search...'. A featured event box titled '注目イベント！' contains the text '春の新人向け連載企画開催中' and a description about supporting new engineers. At the bottom, there are six category cards: 'モデリング' (Modeling), '機械学習' (Machine Learning), 'IoT' (IoT), '開発環境' (Development Environment), '統計解析' (Statistical Analysis), and 'ロボット' (Robotics). Each card has an icon and a brief description of the content.

ITセミナー・イベントへの登壇・展示会への出展

■ ITセミナー・イベントへの登壇

- 文字での技術発信のみならず、ITセミナーやイベントへの登壇も積極的に行なっています。
- 過去には、豆蔵が取り組んでいる産学連携教育の推進に知己のある大学教授の講演や各界を代表する有識者による講演など、多彩なプログラムを設けた『豆蔵DX day』というリアルイベントを実施したこともあります。

■ 展示会への出展

- 展示会への出展も活発に行なっています。ロボット領域では自社オリジナルロボットを用いたデモンストレーションを行ないお客様へ豆蔵が持っている技術価値を発信。
- その他、板金業界向けプラットフォーム『FANDX』や『レーザ溶接ロボットシステム』、対話型AIエンジン『MZbot』のご提案なども行なっています。



勉強会・研修の実施

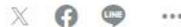
- 豆蔵には複数の事業領域があり、それぞれ扱っている技術が異なるため、事業領域に特化した研修は個別に実施しています。
- それに加え、『豆蔵を知ること』、『豆蔵リベラルアーツを学ぶこと』、『業務を円滑に進められるコツを学ぶこと』という豆蔵社員に共通で学んでもらいたいことをまとめた研修も行なっています。



活動紹介：2022年度中途・新入社員向け社内研修

❤️ 8

株式会社豆蔵
2022年11月2日 10:44



ご参考：[note記事](#)

研修内容：

- 豆蔵グループマインド
- モデリング導入編
- エンジニアリング なぜエンジニアリング？編
- エンジニアリング 要求編
- エンジニアリング 設計編
- エンジニアリング テスト編
- エンジニアリング マネジメント編
- ロジカル言語技術教育
- アーキテクチャを知る・考える
- アジャイルエッセンス
- 文書の書き方・スライドの作り方・議事録の書き方
- DX概論
- ファシリテーション入門 . . . 等

定期勉強会：エンジニア主導の勉強会

- スクモデ：「小さなお題を肴にUMLモデリングを楽しみましょう」がテーマのゲリラ企画
- アジャイル勉強会：隔週でアジャイルに関するあれこれを雑談ベースにディスカッションする場
- コンサルティング活動共有会：コンサルタント同士のノウハウ、ノウハウ共有の場
- AWS技術勉強会：AWS技術について学ぶ場



【実施レポ】AWS×豆蔵「AWS SAと学ぶ 生成AI勉強会」2024.05.16

♡ 2



**豆蔵がAWSに強くなった3つの理由
(2023 Japan AWS ALL Certifications Engineersに豆蔵社員3名が表彰されました)**

♡ 16

バックアップ環境

① 資格取得奨励金

- 豆蔵は、技術トレンドに合わせて業務に必要な知識に相当する資格取得を奨励しています。
- 特にAWS資格は、社員誰でも「AWS ALL Certifications Engineers」が目指せるように、手厚い奨励金を設けております。AWS資格をすべて取得した場合、70万円を超える奨励金を獲得することが出来ます。
- 加えて、情報のインプットが大事な若手（30歳未満）は、資格取得の奨励金が3倍になるルールとなっているため、皆がモチベーション高く取得に向けて学習を進めています。

② 外部学習コンテンツの活用

- O'Reilly Online Learning : 技術系の出版社として世界的に有名なオライリーの技術書読み放題のサブスクリプションサービスを利用できます。
- Udemy Business : 学習動画見放題のサブスクリプションサービスを利用できます。



③ 技術習得費の負担

- 豆蔵は技術習得に関する費用負担は糸目をつけません。会社が必要と認めた社外セミナー受講費、研修参加費、技術書籍費用は全て会社が負担します。

リモートワークだからこそそのコミュニケーション醸成①

① Hackathon

- リモートワークが中心となった豆蔵では、社員同士のコミュニケーション不足の解消やスキルアップを目的として、Hackathon（ハッカソン）が定期開催されています。Hackathonという名前で開催していますが、一般的なHackathonとは異なり、参加者がそれぞれテーマを決めて、勉強・開発を行います。年に一度オフラインでも実施しており、全国から豆蔵社員が集結してHackします。



ご参考：[note記事](#)

豆蔵のHackathon（リアルイベント）に突撃したので活動をご紹介します。

♥ 21



株式会社豆蔵
2023年8月2日 11:35



リモートワークだからこそそのコミュニケーション醸成②

②ライトニングトーク

- 豆蔵では、事業部を横断したコミュニケーションや社員を知ることを目的としたオフラインのイベントとして、ライトニングトークを2か月に1度実施しています。



ご参考：[note記事](#)

【実施レポ】豆蔵ライトニングトーク

2024.04.26

♥ 10

働き方

【時間】

- ・フレックス制度、裁量労働制度の導入により、柔軟な勤務時間の設定が可能です。

→子育てや介護している人でも働くことが可能

【場所】

- ・中途採用はフルリモートでの勤務も可能となります。
北海道、栃木県、静岡県、福岡県 在住での採用実績あり

→2022年度は札幌でワーケーションなどのトライアル実施などもしています。

豆蔵HPより



時短・フルリモートワークで子育て時間も有意義に。現在は、社内ユーザー向けに売上・社内リソースデータを可視化するプロジェクトに携わる。

クラウドコンサルティング

豆蔵のクラウドコンサルティング

- 顧客ビジネスの目的達成に向けた情報システムのあるべき姿の実現を目指し、発注者視点での内製化支援やソフトウェアモダナイゼーションを軸とした**コンサルティング**と**教育**を行うのが豆蔵の特徴です。

① 顧客視点での支援

- ✓ 顧客が自律的に行動できるようになるための支援(≠SIer)
- ✓ システム開発の効率化によるコスト削減の実現
- ✓ 生産性の向上によるシステム開発に関するアジリティの上昇

② ITコンサルティングとIT教育の有機的な連携

- ✓ 内製化の実現をゴールとし、ITコンサルティングと教育を組み合わせながらの支援が可能
- ✓ 講義+演習による理解と、定量的な評価をコンセプトとしたIT教育
- ✓ 実案件で併走することによって技術トランスファーを最終目的としたITコンサルティング

ITコンサルティング

アーキテクチャ
策定支援 アジャイル
導入支援
etc

有機的に
連携

IT教育

アーキテクト
教育 アジャイル
教育 プロジェクト
独自教育
etc

実践的な経験

体系的な知識



教育ソリューションを持っている

お客さまがITを事業運営の武器にする（=内製化を実現する）には、お客さまのエンジニアの成長が不可欠です。そしてエンジニアとしての成長には、体系的な知識と、実践的な経験の二つが欠かせません。豆蔵は、IT教育とITコンサルティングの両方を有機的に連携させた上で支援ができるのが最大の特長です。

全ての開発プロジェクトにアジャイル開発手法を導入

豆蔵のお客様はスピード感を持って新規サービスを提供し続けることやビジネスを牽引するITシステムを確立する事を求めています。それに適応するため、豆蔵は全ての開発案件でアジャイル開発手法を導入しています。アジャイル開発の知見を持ったコンサルタントが多数いるため、お客様の組織に対してコンサルティングと教育の両輪でアジャイル導入を支援します。

クラウドネイティブな開発環境

豆蔵は、AWS社のAWSパートナーネットワークにおいて「内製化支援推進AWSパートナー」に認定されています。「内製化支援推進AWSパートナー」とは、AWSに深い知見と多くの経験を持ち、ユーザー企業の内製化を支援するためのソリューションを持ったAWSパートナーに与えられる日本独自の認定です。豆蔵では、クラウドネイティブなアプリケーションアーキテクチャの策定、クラウドネイティブ技術の選定や適用、マイクロサービスアーキテクチャの構築などの支援をクラウドベンダーに依存せず実施します。



携帯電話サービスのオンラインストア開発体制を再構築

アジャイル+内製化で改善スピードを高め、顧客満足度の向上へ

ソフトバンク様は、LINEとZホールディングスの経営統合を機に、2020年12月にオンライン専用の携帯電話の新ブランド『LINEMO（ラインモ）』の立ち上げを発表。その後、わずか3か月あまりで新しいオンラインサービスサイトを立ち上げました。この成功に豆蔵が寄与しています。

LINEMOオンラインストアの企画からリリースまで3ヶ月という短期間で実現するには、DevOpsといった技術面のみならず、ビジネス部門も巻き込んだBizDevOpsのワンチーム体制の確立が不可欠です。ソフトバンク様はその後もこの体制をベースに、2022年度は1年間で1,000以上のサイト改善を実行。その結果として、LINEMOはJ.D.パワー2022年携帯電話サービス顧客満足度調査をはじめとする各社の満足度調査ランキングで1位になり、4冠を達成。こうした取り組みは、ソフトバンク様社内でも注目を集め、BizDevOpsの輪は徐々に広がっています。

情報元：[ソフトバンク、携帯電話サービスのオンラインストア開発体制を再構築 アジャイル + 内製化で改善スピードを高め、顧客満足度の向上へ](#)



豆蔵、損保ジャパン様の攻めのDX実現に貢献！

次世代基幹システムのアーキテクチャ構築と技術者教育のタッグで超大規模開発を牽引

損保ジャパン様は、長年のニーズ対応で複雑肥大化した基幹システムを刷新し、攻めのDXの中核となる柔軟性のあるプラットフォーム構築を目指されました。豆蔵は、次期基幹システムに適用するフレームワークの評価をきっかけに、進化的なアーキテクチャ構築、開発自前化の技術者教育をご支援しました。豆蔵のアーキテクチャチームにより作成されたフレームワークとアプリケーション設計ガイドは2期開発に向け現在では2,000名強の開発者に利用されています。豆蔵の教育を受講することによって未来革新プロジェクトならではの設計手法を「理解」し、その理解とガイドをもとに「設計」し、フレームワークを使って「実装」といった実開発にシームレスに繋がる独自教育のモデルを構築し展開することを実現しました。

豆蔵はこの基幹システム刷新プロジェクトにおいて、アプリケーション基盤となるアプリケーションアーキテクチャの構築、及びそのアーキテクチャ上でアプリケーション開発を行うエンジニアに対する技術者教育、主に2つの支援を中心に行ってきました。今回はこのプロジェクトに対するアーキテクチャ構築と技術者教育という一見異なる2つの側面に対する豆蔵の活動と支援内容を事例として紹介します。

<アーキテクチャ構築支援サービス>

- アプリケーション基盤の評価
- アーキテクチャ構築支援
- アーキテクチャ利用ガイド作成支援

<技術者教育支援サービス>

- 講座カリキュラムの策定支援
- 技術教育（オブジェクト指向／Java／JavaEE）の実施
- 独自教育の構築と展開

情報元：[豆蔵、損保ジャパン様の攻めのDX実現に貢献！次世代基幹システムのアーキテクチャ構築と技術者教育のタッグで超大規模開発を牽引～損保ジャパン「未来革新プロジェクト」に提供した支援サービスの事例公開～](#)

ORIXグループ設立以来、初めての基幹系システムの刷新

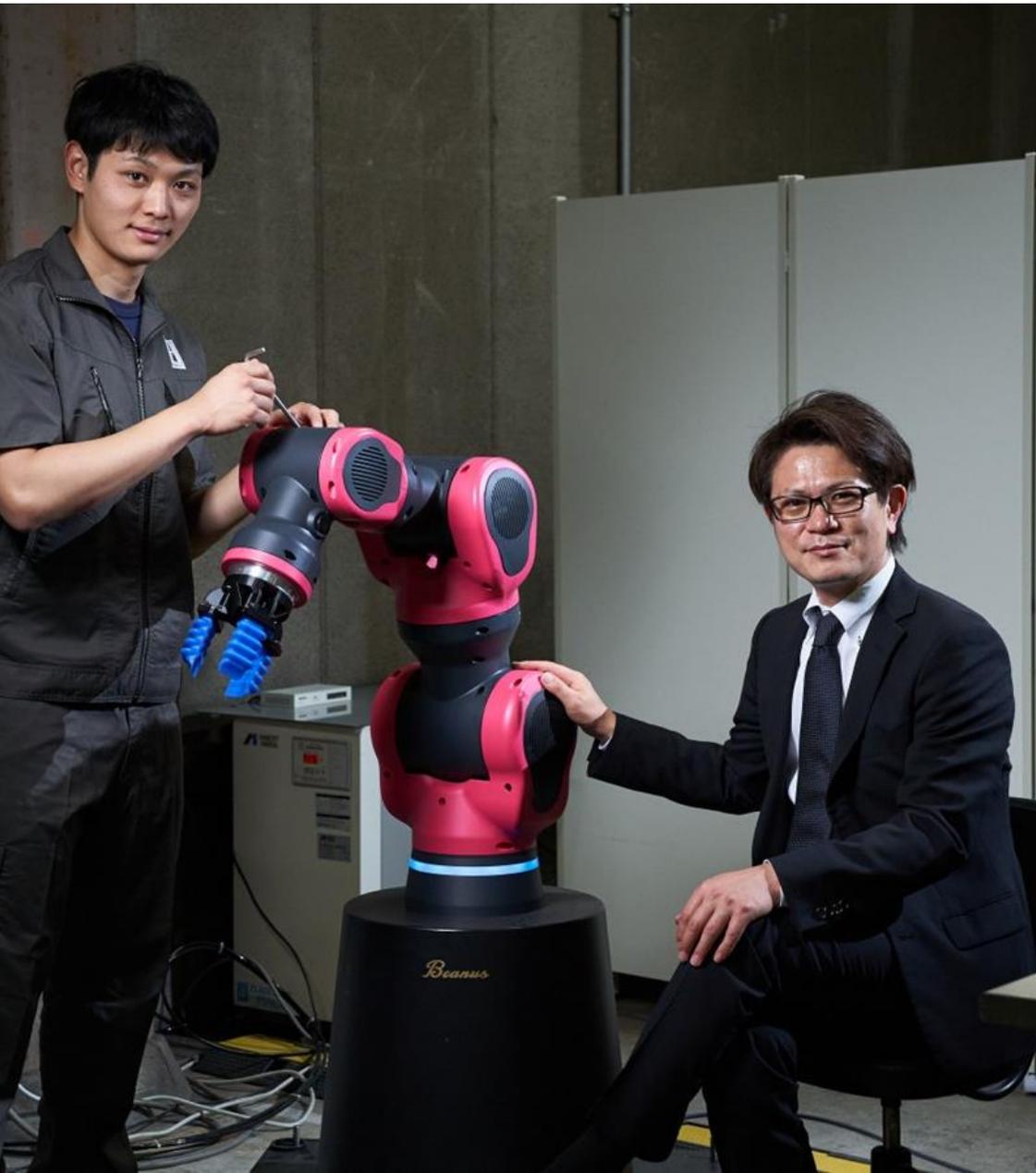


アーキテクチャ企画設計及びプロジェクト全体の品質管理からフロントアプリケーションの開発、運用保守までをお客様視点でご支援。アーキテクチャ企画設計の分野では、オリックス様のビジネスドメインをモデリングしたドメイン駆動設計（Domain Driven Design）という設計技法を採用。

プロジェクト全体の品質管理では、豆蔵の得意とするソフトウェア工学の知見に基づき、各フェーズにおけるテストの横断的支援、継続的インテグレーション（CI）の導入による品質・保守性の向上、多くのサブシステムの段階的リリースを支える変更管理や構成管理の支援など、側面から支援を行いました。また、アプリケーション開発では、多くのユーザーが直接操作されるフロントシステムを構築し、稼働後の運用保守の支援も行いました。

また、開発プロセスとして、ウォーターフォールとアジャイルを組み合わせたハイブリッドアジャイルを採用しております。大規模プロジェクトにおいては、常に、プロジェクト全体が可視化されていることが求められる一方で、ビジネスの価値を実現するために柔軟かつ俊敏に対応することが求められます。そこで、要件定義・基本設計フェーズまではウォーターフォールで行い、実装フェーズ以降はアジャイルで行うことで、この2つの要素を満たしました。

AIロボティクス・エンジニアリング



メカ・エレキ・ソフトを一貫して開発できる

ロボットを開発するためには、ハードウェアとソフトウェアの協調設計が重要です。豆蔵のロボット開発の強みの一つは、メカ・エレキ・ソフトを豆蔵一社でワンストップに開発できること。複数の会社で分担して開発するケースでは、会社間の調整で時間を要したり、場合によっては責任のなすりつけ合いが起きたり、といった場面が多く発生します。ワンストップで開発することで、システムのゴールに向けた最適な設計を短期間で進めることができるのです。また、独立系企業でロボット本体の開発ができるSIerは非常に少ないです。ロボットの内部のことを熟知していますので、より技術的難易度の高いSI案件にも対応できますし、市販ロボットで実現できない場合にはカスタムロボットを開発するという提案ができるのも、他社では実現できない豆蔵の強みです。

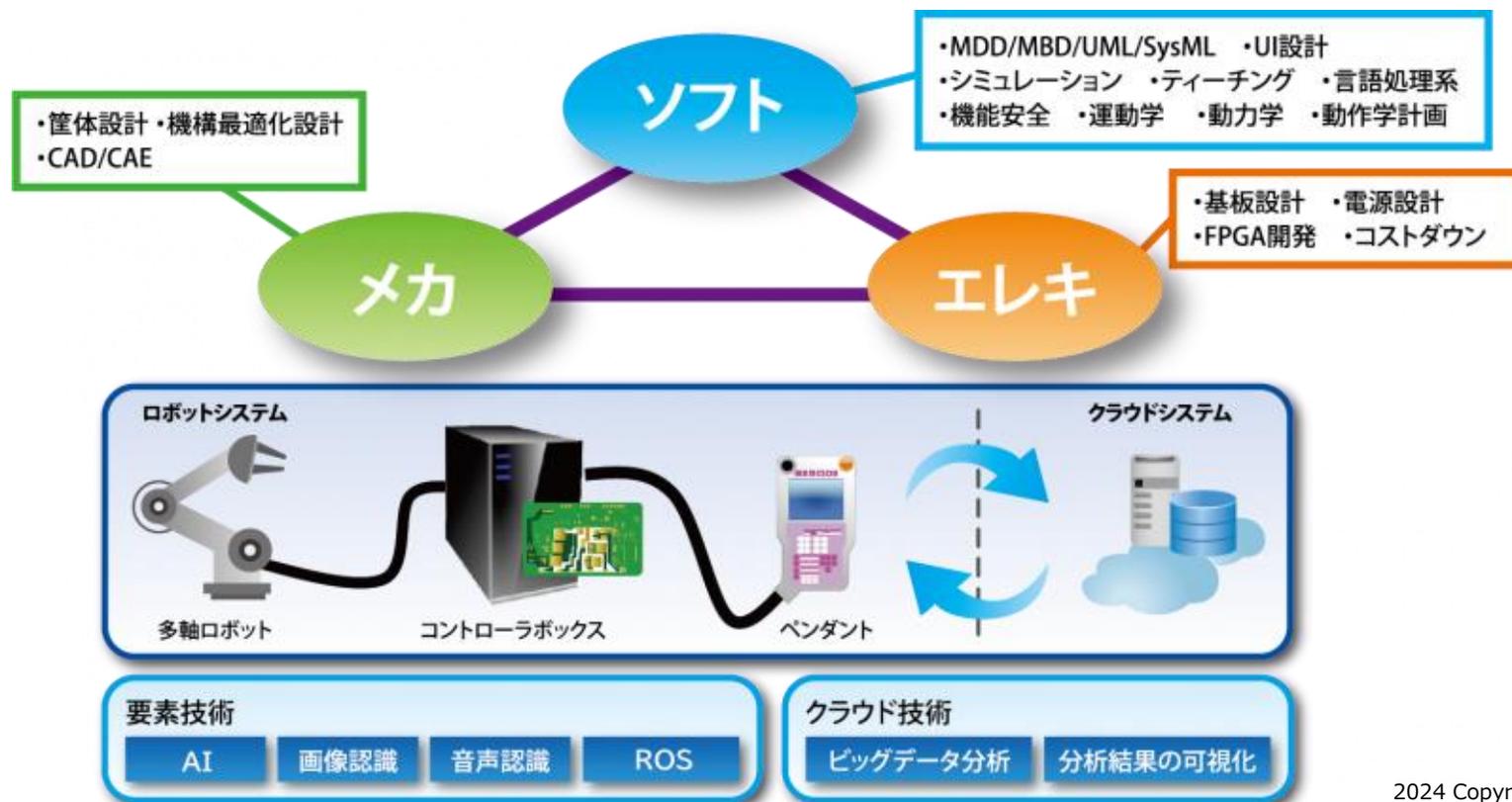
ソフトウェアエンジニアリングに基づいた開発

従来の産業用ロボットではティーチングプレイバックで決められた動作を繰り返すだけでしたが、近年ではセンサーやカメラの情報を使って自律制御したり、クラウド等の外部システムと連携したり、AI技術を活用したりとロボットへの要求が非常に高度化しています。このため、ロボットシステムは、大規模化、複雑化、高機能化しており、ますますソフトウェアの技術が重要になってきているのです。

これらのニーズに対応するために、豆蔵は数多くの開発、コンサルティングを実践してきた経験を活かしています。システムエンジニアリングやソフトウェアエンジニアリング技術を活用するだけでなく、豆蔵の得意なモデリング技術、シミュレーション技術を活かしています。また、豆蔵はコンサルティングや教育も得意としています。お客様自身でロボット開発ができるように技術者教育を実施し、お客様の開発プロセスを改善することができるのも豆蔵の強みとなっています。

ロボット領域の強み

- メカ・エレキ・ソフトを一貫して開発。プロジェクトは**90%**が新規開発案件
 - 強みであるシステム工学、ソフトウェア工学に加え、ロボット工学やメカ、エレキの幅広い領域に対する知識を有し、ロボットシステム全体の開発が可能です
 - ロボットシステム全体の開発から、メカ・エレキ・ソフトの個別開発、要素技術の開発まで、ロボットシステム全般に渡って開発支援します





ロボット領域は、
ロボットメーカー、ロボットユーザー企業に
対して先進的な開発をご支援

先行開発案件は**90%**以上

ロボットメーカー

- 製品の企画支援、ロボットの試作開発
- 個別開発支援（メカ/エレキ/ソフト）
- 要素技術開発支援
- クラウド側開発支援

ロボットユーザー企業

- システムインテグレーション
- ロボット導入による自動化支援
- 周辺機器（ハンド含む）の開発
- スマート工場化
- カスタムロボット開発

共同研究の内容

本共同研究では人の安全を確保しながら市場の要求に答えるために協働ロボットの「軽さ」と「柔らかさ」を設計コンセプトとし、ロボットアームのフレームの樹脂化、高バックドライバビリティ減速機の採用を行い、7軸協働ロボットの試作機(Beanus2)を開発しました。

三井化学

樹脂素材・成形技術

豆蔵

7軸協働ロボット設計・組立

軽さ

×

柔らかさ

日本電産シンボ

高バックドライバビリティ減速機

豆蔵

力制御技術

オリジナル協働ロボットシステム Beanus2(ビーナス2)

樹脂製外骨格

1軸(根本)~7軸(先端)のフレームを樹脂化



高バックドライバビリティ減速機

1軸(根本)~7軸(先端)に採用

状態表示リング

発光色により動作状態を確認

項目	仕様		
動作角度 / 最大速度	J1	±180 [deg]	180 [deg/sec]
	J2	±90 [deg]	140 [deg/sec]
	J3	±180 [deg]	150 [deg/sec]
	J4	±110 [deg]	150 [deg/sec]
	J5	±180 [deg]	180 [deg/sec]
	J6	±115 [deg]	180 [deg/sec]
	J7	±180 [deg]	180 [deg/sec]
制御軸数	7軸		
可搬質量	10.0 Kg		
最大動作領域	854 mm		
質量	27.5 Kg		
電源供給電圧	100V AC 50-60Hz		
主な用途	ピック&プレース、組立		

Beanus2ダイレクトティーチ

[YouTube動画](#)



非接触衝突回避ロボットシステムのデモ

[YouTube動画](#)



2023国際ロボット展(iREX) 豆蔵 小袋ばら積みピッキングデモ



[YouTube動画](#)



第7回ロボデックス 豆蔵食品盛り付けロボット

[YouTube動画](#)



産業用ロボット開発支援：未経験でロボット開発にチャレンジ

- 顧客：海外のロボットメーカー
- 内容：6軸産業用ロボットのコントローラ、ティーチングペンダントのハードウェアおよびソフトウェアの開発
- 効果やコメント：豆蔵として初めてのロボット開発（2013年）。ロボット工学は東京農工大の遠山茂樹教授にコンサルティングいただいて一から学習。お客様から高い評価を得て、ロボットアームの設計も追加で依頼される。このプロジェクトを通して、産業用ロボットを構成するメカ、エレキ、ソフトを全て自社開発する技術を、獲得することができた。



樹脂製の7軸協働ロボット「Beanus 2」

- 顧客：自社製品
- 内容：樹脂製7軸協働ロボットの開発
- 効果やコメント：Beanus2は、豆蔵が三井化学、日本電産シンポと共同開発を行った、オリジナルの協働ロボットです。豆蔵がロボットアーム、コントローラの設計を行い、三井化学が樹脂成形技術、日本電産シンポが高バックドライバビリティ減速機を提供しました。ロボットアームを樹脂化することで、金属製のロボットアームと比べて1/2まで軽量化することができました。また、高バックドライバビリティ減速機の高効率・低摩擦を活用することで、モータ電流で高精度に外力を推定することができ、トルクセンサーなしで衝突検知やダイレクトティーチングを実現しました。軽さと柔らかさを実現するロボットの新しい設計手法をロボット業界に提案し、展示会で大きな反響を得ることができた。



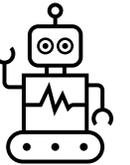
東京農工大との共同研究

- 顧客：-
- 内容：「産業用ロボットアームの開発期間を短縮する設計手法」の共同研究
- 効果やコメント：遠山教授のロボット工学の知識に、豆蔵の得意とするモデルベース開発技術、シミュレーション技術、開発プロセス構築技術を応用することで、少ない試作回数で量産機レベルの性能を達成する設計手法を構築。



双腕ロボット開発：プロダクトだけでなくプロセスも提供

- 顧客：国内のロボットメーカー
- 内容：双腕ロボットの試作開発
- 効果やコメント：双腕ロボットの商品企画、コンサルティングを行い、システム設計からロボットアーム、コントローラ、ペンダントなど、全ての構成要素を豆蔵で一から試作開発。本開発で適用したモデルベース開発手法などの技術も含めて、ロボットメーカーにスキルトランスファーしました。これにより、ロボットメーカーはプロダクトだけでなくプロセスも獲得することができ、その後のビジネスの成功に繋がられました。





2013年

ロボットコントローラ開発に着手

海外ロボットメーカー向けの産業用ロボットコントローラのエレキ、ソフト開発に着手。ロボット工学を習得。



2014年

ロボットコントローラ試作機の完成

オブジェクト指向、モデル駆動開発、シミュレーション技術などのソフト工学とロボット工学を融合させ、ロボットコントローラの試作開発に成功。



2016年

ロボットアーム設計手法共同研究

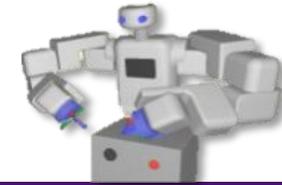
東京農工大とロボットアームの設計手法を共同研究。モデルベース開発を駆使し、短期間にロボットアームを設計する手法を確立。



2017年

自社製協働ロボット Beanus開発

自社製協働ロボットの試作機を開発し、国際ロボット展に初出展。メカ、エレキ、ソフトを8ヶ月で開発。



2018年

双腕協働ロボット開発

ロボットシステム開発支援サービスを適用し、国内ロボットメーカー向けの双腕協働ロボットを10ヶ月で試作開発。

2019年

物流向け双腕ロボット開発

物流向け双腕ロボットのコントローラを開発。ピック&プレイスのためのビジョンAIの開発も実施。



2020年

自社製協働ロボット Beanus2開発

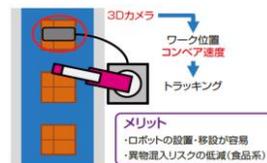
三井化学、日本電産シンボとの共同開発にて軽さ・柔らかさを実現する自社製協働ロボットを開発。ロボットメーカーに向けて新しい要素技術を提案。



2021年

ビジョンシステム開発

ビジョンシステムの開発を強化。ソフトウェアを中心としたロボットシステム開発を提案。



2021年

レーザー溶接ロボットシステム提供開始

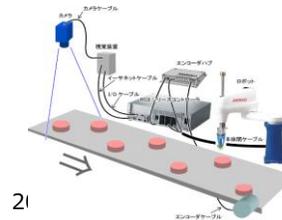
新規事業として板金加工業専用のレーザー溶接ロボットシステムのサービス提供を開始



2023年

ロボットシステムインテグレーション

食品産業向けのロボットシステムを開発。ロボットシステムインテグレーション案件が拡大。



ロボットメーカー企業向け

産業機器ロボット開発



- ・溶接、研磨
- ・パレタイジング
- ・組立て
- ・カッティング

物流向けロボット開発



- ・双腕ロボット
コントローラ開発
- ・AIピッキング

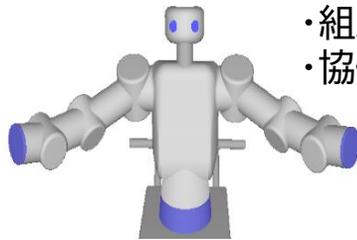
ロボットユーザー企業向け

板金加工自動化システム開発



- ・レーザ溶接システム
- ・板金プラットフォーム

双腕ロボット開発



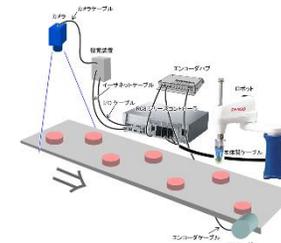
- ・組立て
- ・協働ロボット

リジナルロボット研究開発



- ・協働ロボット
- ・Visionシステム
- ・力制御

食品加工自動化システム開発



- ・ハンド開発
- ・画像処理
- ・コンベア連携

医療用ロボット開発



- ・制御F/W開発
- ・シミュラ開発

ロボットプラットフォーム開発



- ・RaaS開発

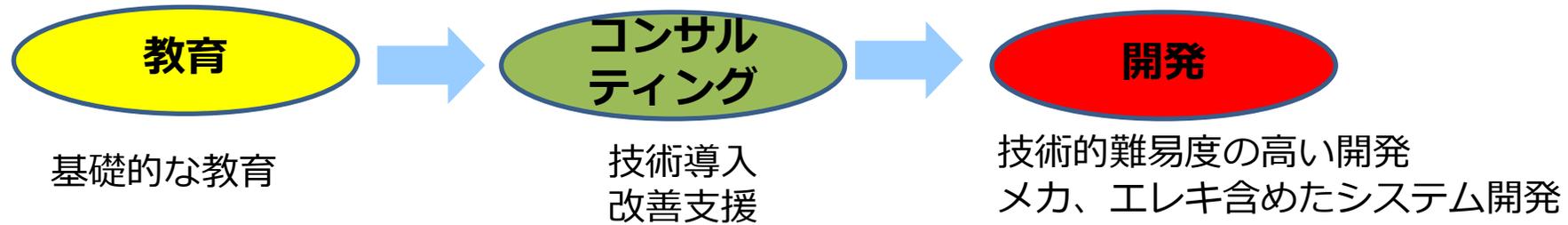
協働ロボット(UR)システム開発



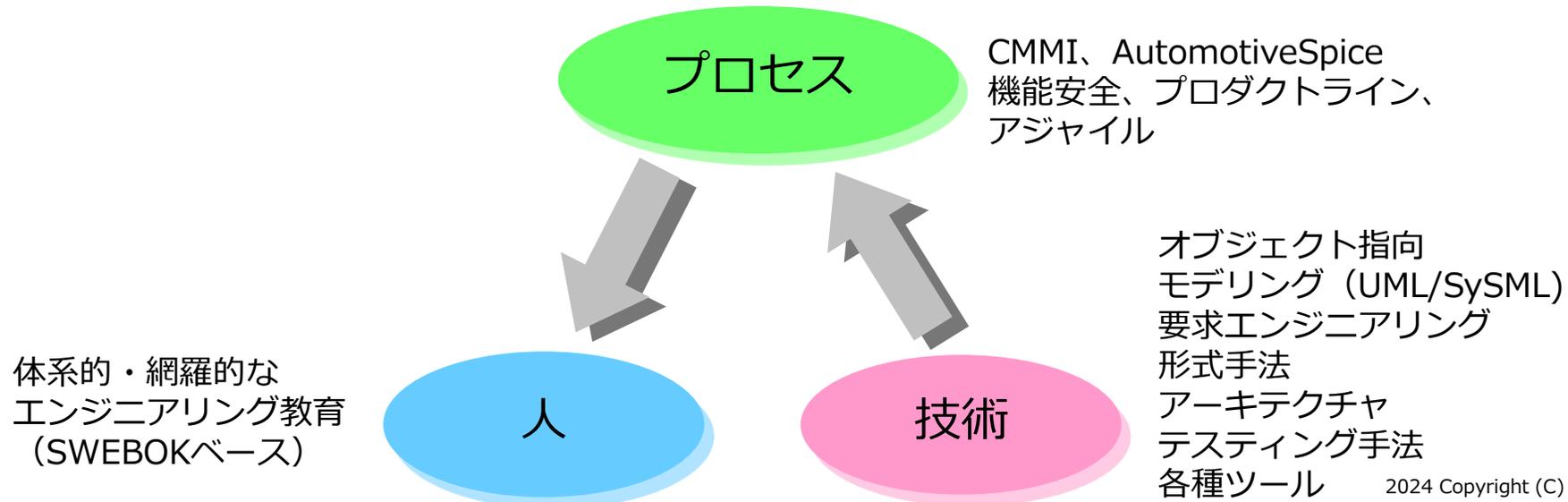
- ・溶接機制御
- ・FPCケーブル嵌合
- ・コンベアトラッキング

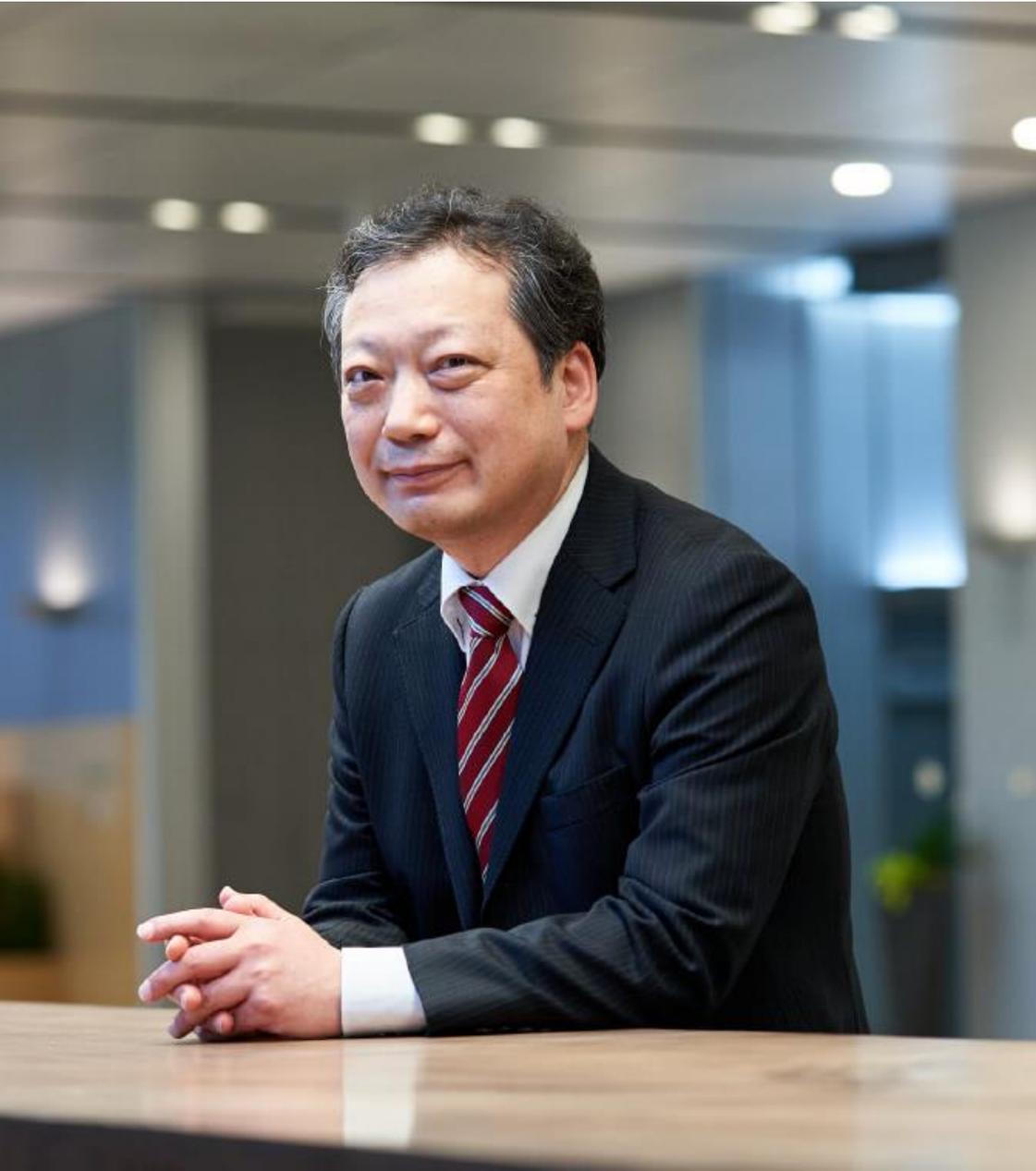
モビリティ・オートメーション

- 豆蔵は各メーカーに対して下記をご支援
コンサルティング・開発から教育までトータルでサービスご提供



プロセスを中心に人、技術の3つの視点で支援





エンジニアリングに基づく支援

豆蔵はシステムズエンジニアリング、ソフトウェアエンジニアリングといったものづくりにおける原理原則を踏まえることで、それらの問題を解決しつつ、そこに経験を乗せた形で支援を行っています。

すべての根底となるモデリング技術

豆蔵は1999年の創業以来、モデリング技術をエンジニアの基本スキルとして重要視しています。現在注目されているMBSE(Model-Based Systems Engineering)やMBD(Model-Based Development)、DDD(Domain Driven Design)といった技術はすべてモデリングスキルが中核となっています。DXにおいても、そもそもの「業務の理解」のためには業務のモデル化が必須です。また、デザイン思考といったイノベーションの分野でもモデリングは見える化のための必須技術となっています。豆蔵はこうしたモデリングについて長年の経験を重ねており、様々なノウハウを持っています。

人材育成支援

豆蔵は製品開発支援やコンサルティングだけでなく、人材育成のためのトレーニングコンテンツを自社開発の形で持っていることも他社との大きな違いになっています。このトレーニングコンテンツは、ソフトウェア開発(要求～仕様～アーキテクチャ設計～設計～テスト)、プロジェクトマネジメント、品質技術(レビュー、静的解析)、システムズエンジニアリング、オブジェクト指向技術等、多くの技術領域に対応するものが用意されており、製品開発の現場で直面する大抵の問題に対応可能です。また、これらのトレーニングコンテンツの背景には豆蔵独自のエンジニアリング体系があり、それに基づいて各コンテンツが作られているため、コンテンツ同士で内容が矛盾したり、用語の意味が違ってしまうようなことはありません。

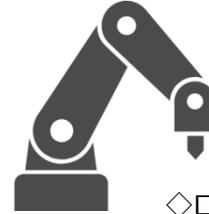
CASE、MaaS 自動車



◇自動車メーカー、自動車部品メーカー

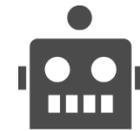
量産開発よりも**先行開発**に関わることが多い。
新規技術導入および安全性確保のための開発プロセス導入支援など。

オブジェクト指向やモデルベースによる抽象化技術を駆使して、豆蔵は独自のポジションを築いている



高機能化、FA化 ロボット

- ◇ロボットメーカー
 - ・製品の企画支援、ロボットの試作開発
 - ・個別開発支援（メカ/エレキ/ソフト）
 - ・要素技術開発支援
 - ・クラウド側開発支援
- ◇ロボットユーザー企業
 - ・システムインテグレーション
 - －ロボット導入による自動化支援
 - －周辺機器（ハンド含む）の開発
 - －スマート工場化
 - ・カスタムロボット開発



その他製造業



◇大手建設機械メーカー

- ・ソフトウェア開発や開発プロセス支援、安全設計支援等

◇大手医療機器メーカー

- ・眼底検査機器や医療用ロボット等の設計開発支援



◇大手機械メーカー

- ・ブレーキ新幹線のドア、新幹線ホームのドア等の設計開発支援



IoT製品開発

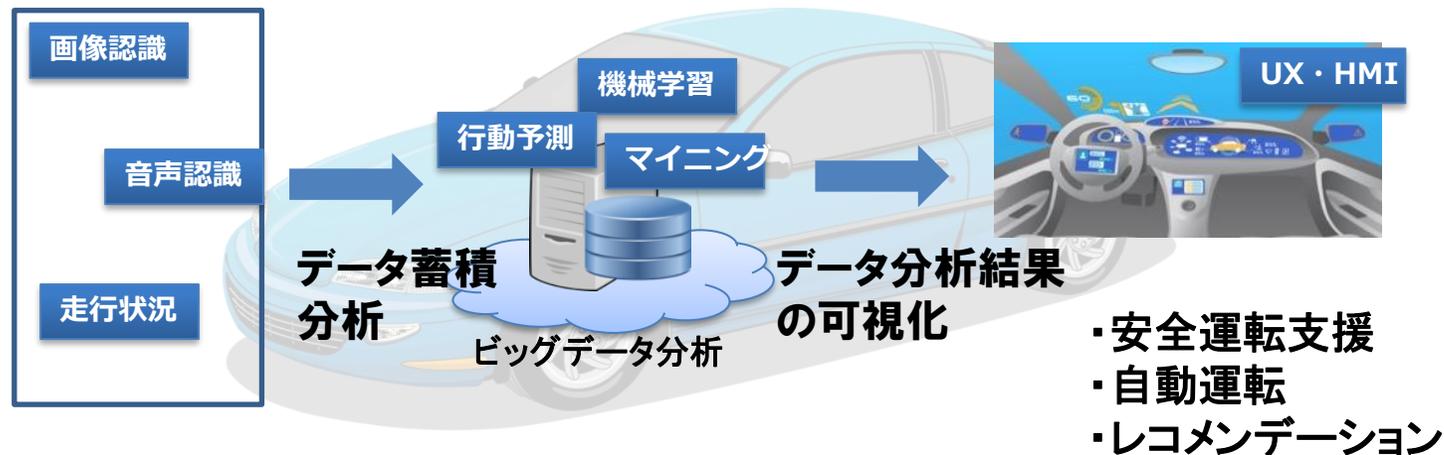
◇自動車メーカー、車載機器メーカー

- ・IoTデバイス機器の設計開発
- ・試作開発



車載系開発

- 今後の自動車の価値は、ソフトウェアによって大きく左右されてきている。
- 自動車の開発は、ハードウェア中心の従来の開発手法から脱却しソフトで自動車を定義する**ソフトウェア定義車両 (SDV)**に移行してきている。
- 自動車メーカー、部品メーカーは**ソフトウェアの内製化**を進め、OSSの活用も増えてきている。
- 豆蔵は、これらのソフトウェア内製化に伴い、**豆蔵の得意とするMBSE、要求定義等の上流系の支援、テスト戦略・テスト設計、開発プロセス、開発環境構築、プロジェクトマネジメント支援、機能安全 (ISO26262)、セキュリティ、人材育成**に関する案件が増えてきている。顧客からは**EVの新興勢力に負けないソフト開発力の向上を支援してほしい**という要望が増えてきている。



AIコンサルティング

テクノロジーを融合して、新しい価値を創造できる技術者集団を目指す

～100年後でも使われる価値の創出～

2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
<p>AI/データサイエンティスト育成支援</p> <p>データサイエンティスト育成のためのサービスを提供。</p>	<p>データ利活用基盤設計・構築支援</p> <p>クラウドをベースとした、データ利活用基盤を構築する支援を開始。</p>	<p>AIエンジンの開発・提供</p> <p>対話型AIエンジン（特許取得）を開発し、お客様のDXを支援。</p> <p>MZbot</p>	<p>RPA導入支援</p> <p>RPA技術を使った内製化支援をいち早く適用。</p>	<p>DX・AIの実践的教育の提供</p> <p>データ利活用の場における、お客様の実課題・実プロジェクトをテーマとした、インプットした知識をアウトプットする力を養う実践的教育を提供。</p>
<p>オープンデータの利活用支援</p> <p>総務省のオープンデータ利活用実証実験に参画。</p>	<p>産学連携でデジタルマーケティング</p> <p>企業の実課題・実データを活用したデジタルマーケティングの研究を大学、民間企業、豆蔵が連携して実施。</p>	<p>AIモデル構築支援</p> <p>金融系の企業向けに機械学習を活用したシステムを実装支援。</p>	<p>DX/デジタルトランスフォーメーションに関する新規サービス創出支援</p> <p>デザイン思考やビジネスモデルなどのフレームワークと、データ・デジタル技術を用いた新しいサービスの創出支援。</p>	
2019年	2020年	2021年	2023年	Coming soon...

<p>デジタル戦略立案</p> <p>企業でDXを実現するために必要な、デジタル戦略立案サービス（デジタル戦略、組織、人材、マインド、プロセスなど）を提供。</p>	<p>ノーコード・ローコード導入支援</p> <p>PowerApsなどのツール導入サービスを開発し、お客様の内製化を支援。</p>	<p>MLOps導入支援</p> <p>予測精度を保つためのMLOps（機械学習で効率的に運用管理する技術）をいち早く提供。</p>	<p>応用人工知能</p> <p>社会実装に役立つ人工知能技術（説明可能AI、ドメインシフト、少量データ学習）の最新技術キャッチアップと独自手法研究</p>	
<p>衛星データ利活用サービス提供</p> <p>新たなデータ（衛星データ）を組み合わせデータ分析し、新しい価値/インサイトを生み出すことを支援するサービスを提供。</p>	<p>DX教育プラットフォーム提供</p> <p>企業のDX教育を実践的かつ効率的に行うことを可能とした、教育プラットフォームサービスの提供を開始。</p>			



デジタル技術/データ活用による変革

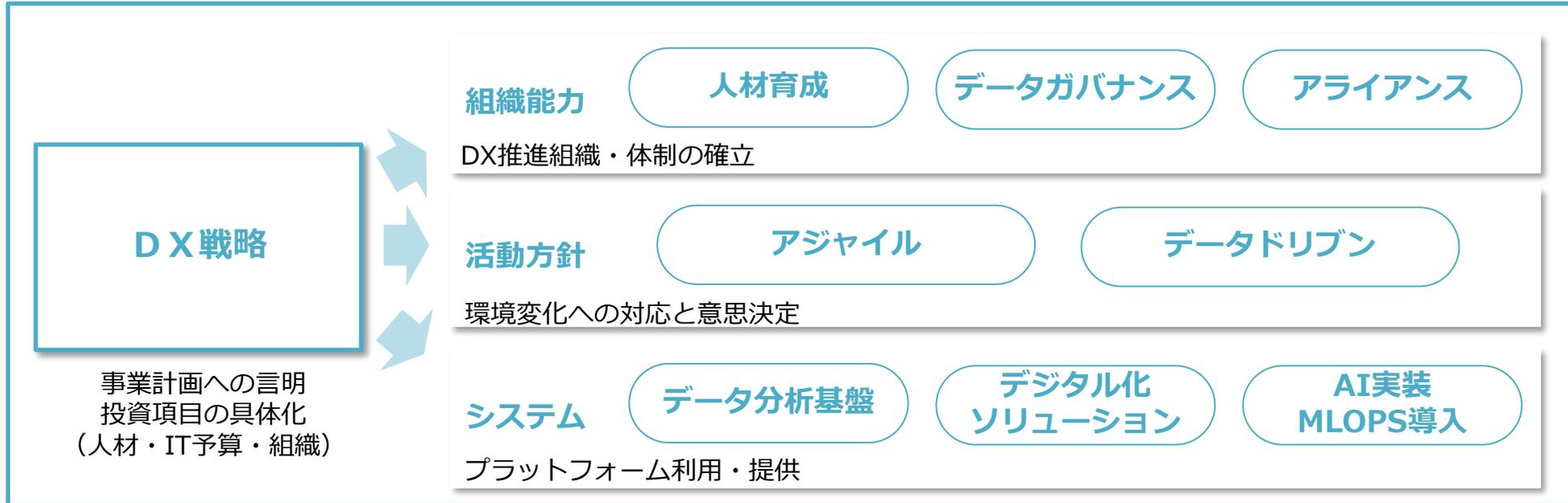
豆蔵デジタル戦略支援事業部はデジタル社会において、**お客様の人材、組織、プロセスを変革**して、持続的な成長を可能にし、お客様の保有データをもとに新たな価値創造を支援します

デジタル技術/データ活用による変革

既存ビジネスの課題を解決することで、新たな価値を創出

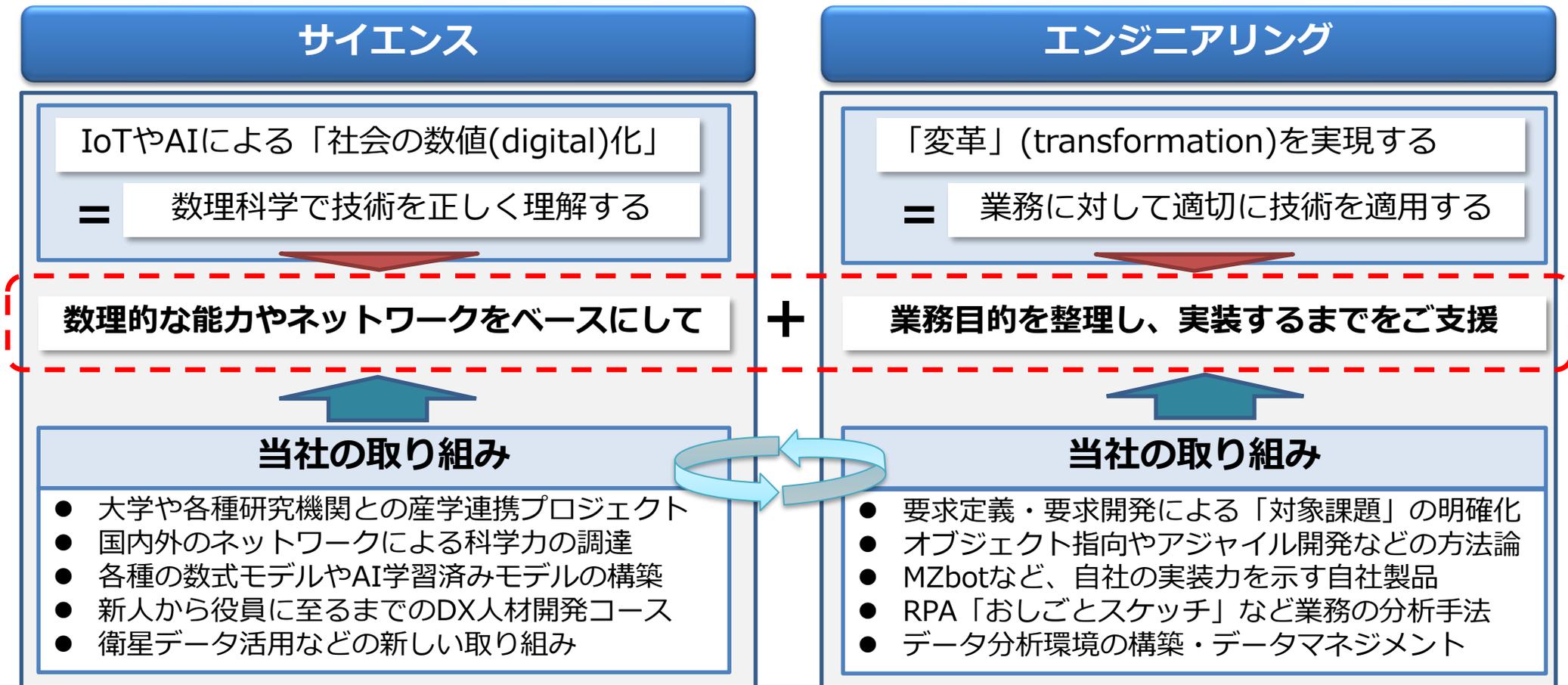


新たな市場やビジネスへの取り組みにより価値を創出



「サイエンス」に裏付けられた「エンジニアリング」サービス

科学的なアプローチと合理的な業務改革・実装を行うエンジニアリングの両輪で、顧客企業様のデジタルトランスフォーメーションを強力に推進します



DX推進コンサルティング

- ・データサイエンスOffice
- ・データ分析基盤構築（要求、要件定義）

DX人材育成サービス

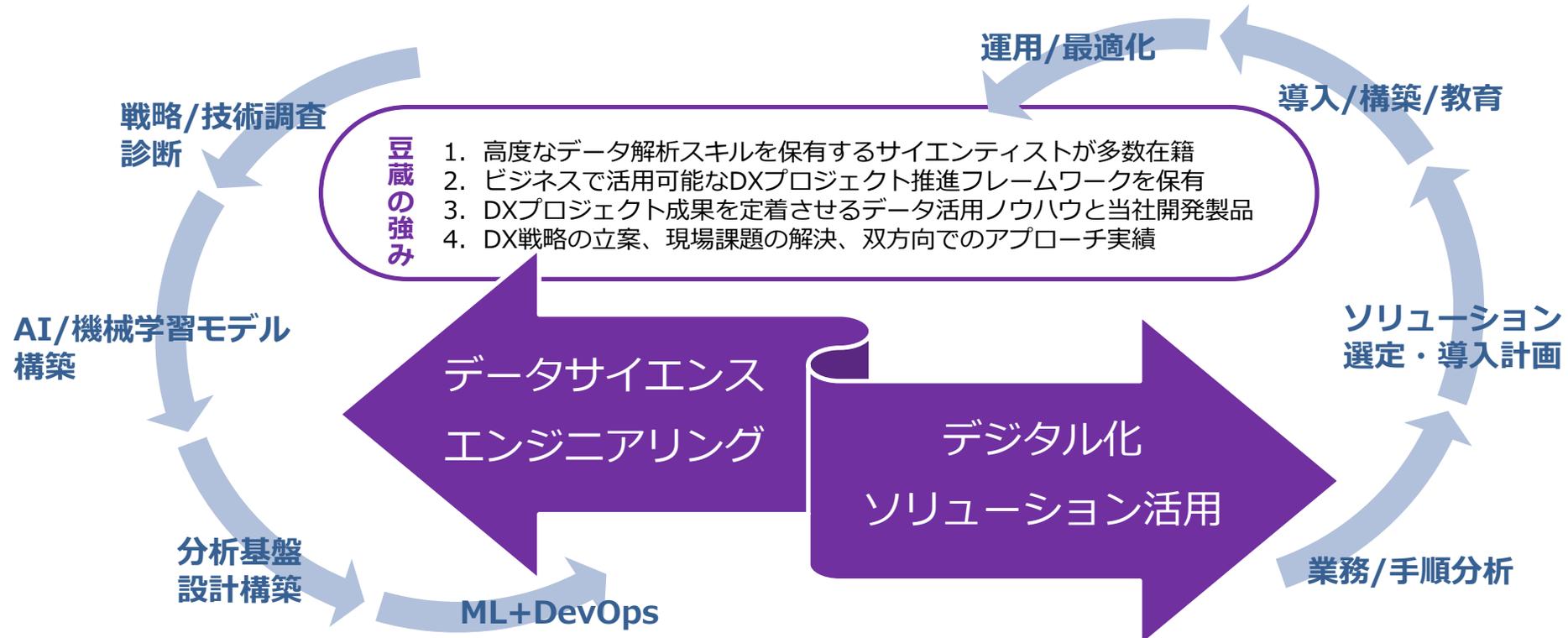
- ・DX人材像/スキル定義
- ・研修/実践演習/PBL/内製化支援

デジタル業務改革支援サービス

- ・RPA Office
- ・ノーコード/ローコード開発支援

対話型AIエンジン

- ・MZbot（当社開発製品）
- ・DXプラットフォーム開発



「何から始める」「どのように始める」 に応えた指針を示します

DXにおける企業の現状

多くの企業が、既存ビジネスの変革や新ビジネスの創出の必要性を「非常に強く」感じている
しかし、「既に十分な／ある程度の成果が出ている」という企業は少ない

DXが進まない原因

課題自体は把握しているが、どのように課題を解決し、DXを進めるのかわからない

本サービスで目的を明確化し、各社に合わせたDXの進め方を示す

調査 (ヒアリング)

診断シートにより現状を診断する。
必要に応じて各種資料の精査や追加ヒアリングする。

評価・提言

何が障害となっているのかを分析して評価を行い、どこから進めればよいかの方針を立てる。その方針を経営層に提言し、理解を得る。

ロードマップ作成 (計画)

方針に基づき、各社に応じたDXのビジョンとそのビジョンに基づいたDXの推進ロードマップを作成する。

No	主要診断項目
1	経営ビジョン
2	組織
3	人材
4	プロセス
5	データ利活用基盤
6	プロジェクト体制
7	外部活用
8	リーダーシップ
9	マインド

デジタルデータのさらなる利活用を 実績と産学連携で磨かれたメンバーがフルレンジで支援します

- ソリューションとしてのAI提供
画像/動画/音声/自然言語等の各種データ分析において、AI技術を活用した、お客様の課題に応じた最適なソリューションをご提供します
- スキルトランスファー
お客様とチームでプロジェクトを進めることにより着実にスキルトランスファーを実施します
- ベンダーフリー
独立系コンサルタント会社であるため、公平な立場で最適なツール、ソリューションの検討提案が可能です

- 産学連携（要素技術）
数理学・計算機科学・人工知能に関する要素技術について連携しています



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY



国立大学法人
九州工業大学



立教大学



ISIT

- 産学連携（技術応用）
要素技術を実際にビジネスに応用するための技術応用についても連携しています



国立大学法人
一橋大学

AI/機械学習、データ分析に必要なスキル

① **ビジネスカ**
課題背景を理解し、ビジネス課題を整理・解決に導く力

② **データサイエンシカ**
情報処理・人工知能・統計学などの情報科学系の知恵を理解し使う力

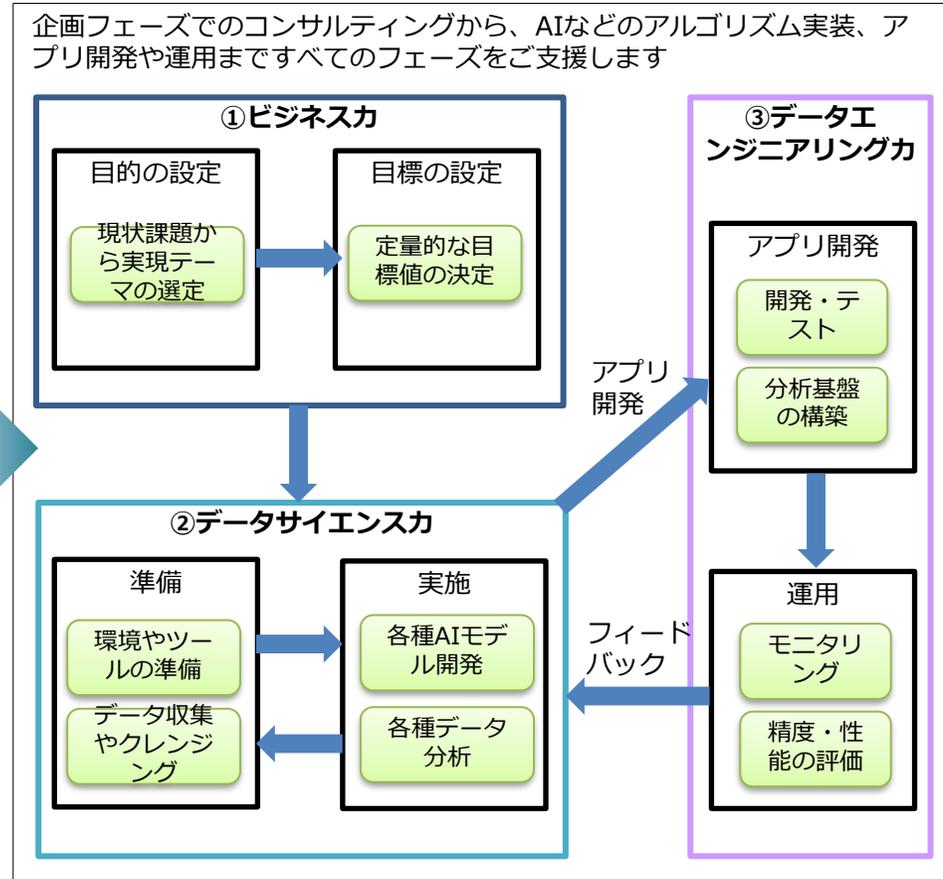
③ **データエンジニアリカ**
データサイエンスを意味のある形として扱えるようにして、実装・運用する力

出典：データサイエンティスト協会

- AIアプリ開発の実績
対話型AIエンジンMZbot（チャットボット）を自社開発しています



scientia est potentia
Mamezou Bot Engine



ビジネスに、“宇宙からの新しいインサイト”を提供します

衛星データは大きな可能性を有しながらも、ビジネスへの利用は未だ「簡単なもの」ではありません

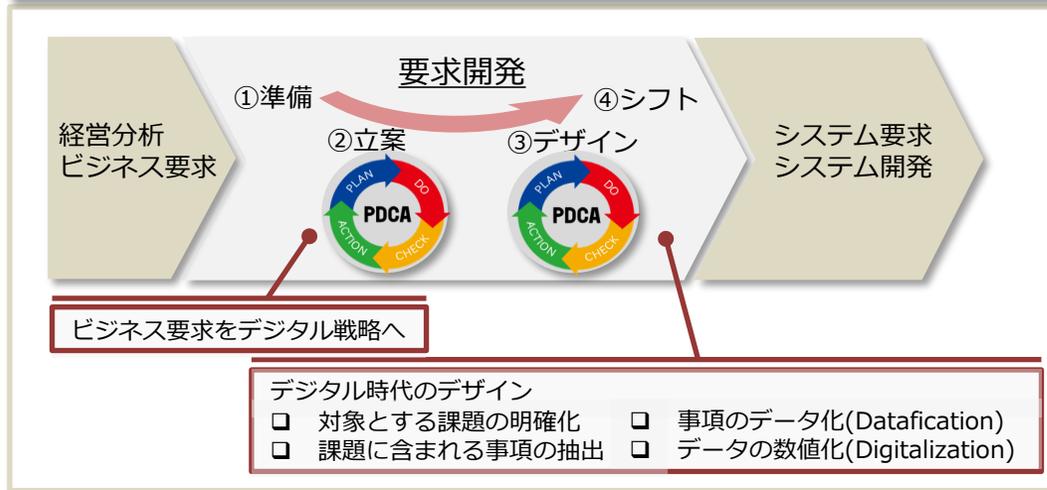
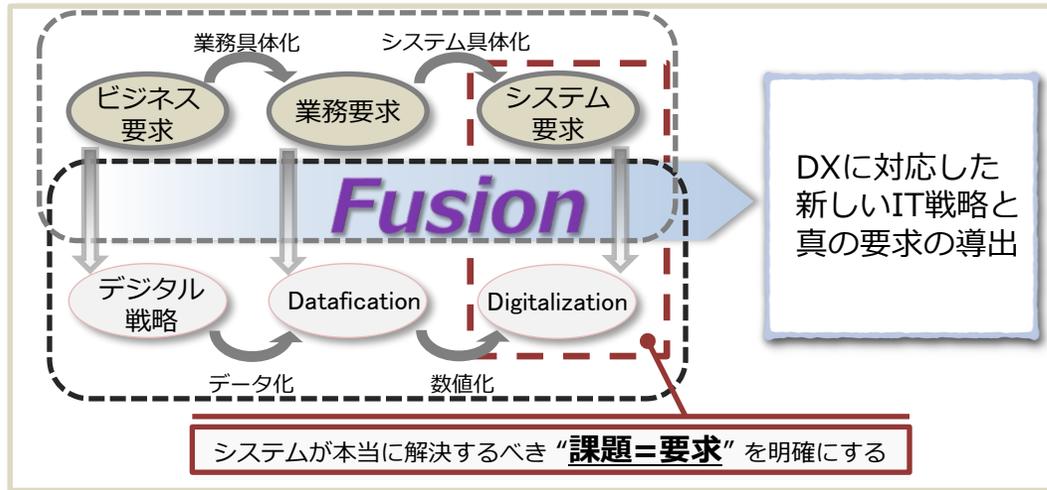
- データ取得の困難性
- データフォーマットの特殊性
- 利用の難易性

豆蔵の「スペースサイエンスチーム」が、この課題を克服し、新しいインサイトを提供します！

1. 衛星データ利用プロジェクトの**企画から運用の定着化にいたるまで**のご支援が可能です
 - 意見やアイデアが創発される場づくりのノウハウと、適切なデータ分析の手法等をレクチャーするノウハウで、企画や開発、検証、運用までをスキルトランスファーを含めてご支援します
2. **衛星データを扱える要員によるデータ分析チーム**を有しています
 - 宇宙観測データの解析で世界的成果を挙げた経験豊富なメンバーに加え、JAXA、NASA、宇宙企業とのコネクションを有しています
3. 実ビジネスにおける**（金融・生産等の）各種データ分析の実務経験も豊富**です
 - チームの全員に、金融、センサーログ等のデータ分析サービスに従事した実務経験があります
 - 衛星データによる地上にある設備機器の動作制御など、既存ビジネスへの応用も可能です

- 各種の「**地表上の様子（Fact）**」を、誰よりも早く、何よりも安く、把握します
 - ・ 不動産調査や店舗出店計画などに対する、定量的な評価として利用できます。
- 既存の**各種業務データと掛け合わせることで、新たな分析モデル等の構築**が可能になります
 - ・ 新たなパラメータとして衛星データを加えることで、新しいインサイトを導きます。

DXに対応する新しい企業システム そこに求められる真の「要求」を描いたRFPを作成していきます



DXプロジェクトのリスク

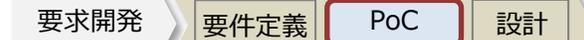


リスクを考慮せずにスケジュールを策定すると、技術的リスクが解消出来ていないままプロジェクトが進行してしまいます。

PoC(Proof of Concept[実現可能性検証])の実施

RFPに“PoCの実施と明確な評価内容”を定義することで、技術的リスクの解消を確認しつつイテレーティブにPoCの成果を取り込みます(PoCの実施タイミングは、新技術の占める割合(検証結果による影響範囲)で判断します)。

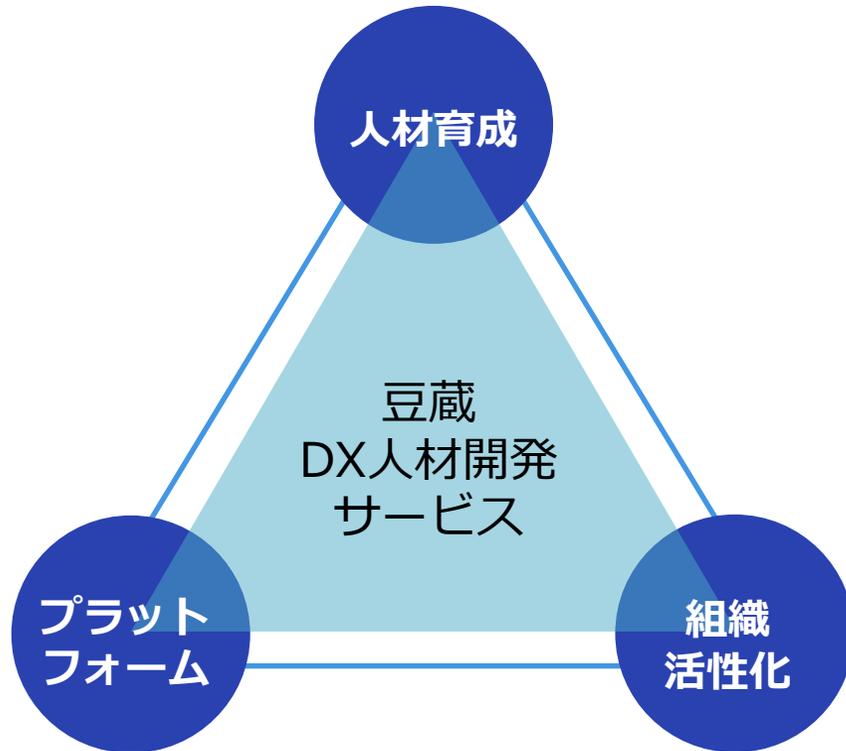
新技術の占める割合(検証結果による影響範囲)が小



新技術の占める割合(検証結果による影響範囲)が大



DX成功のカギを握る 「人」を育て「組織」の最適化を伴走型で支援します



組織を強くする3つの要素を
組み合わせてご提供いたします

1 DX人材育成

- 組織のDX戦略と人材育成計画を踏まえたスキル習得目標の設定と習得計画の立案、実施
- 達成度合いやニーズの変化に対応した計画、カリキュラム管理
- 研修やPBL、OJTスタイル等の多様な教授手法

「先端技術を使う」「ビジネスとつなぐ」人材に必要なスキル

- ◆ 課題発見・課題解決 : 数学的アプローチによる課題解決知識習得
- ◆ データ活用と先端技術 : 統計、AI（人工知能）を用いた解決策
- ◆ アジャイル開発導入 : DXプロジェクトを対象とした管理の導入
- ◆ DXセキュリティ : セキュリティ・バイ・デザインの導入と管理

2 DX組織活性化

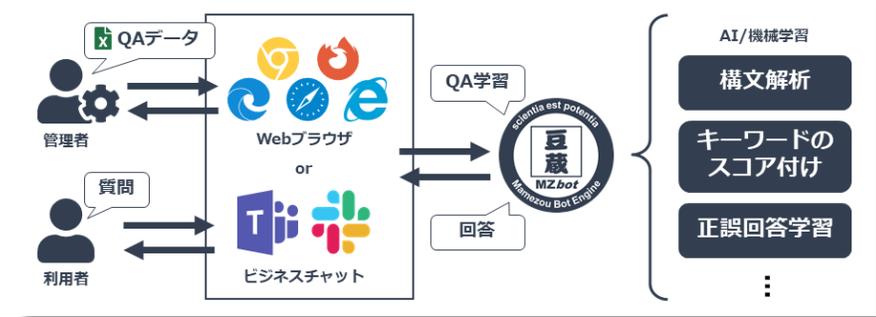
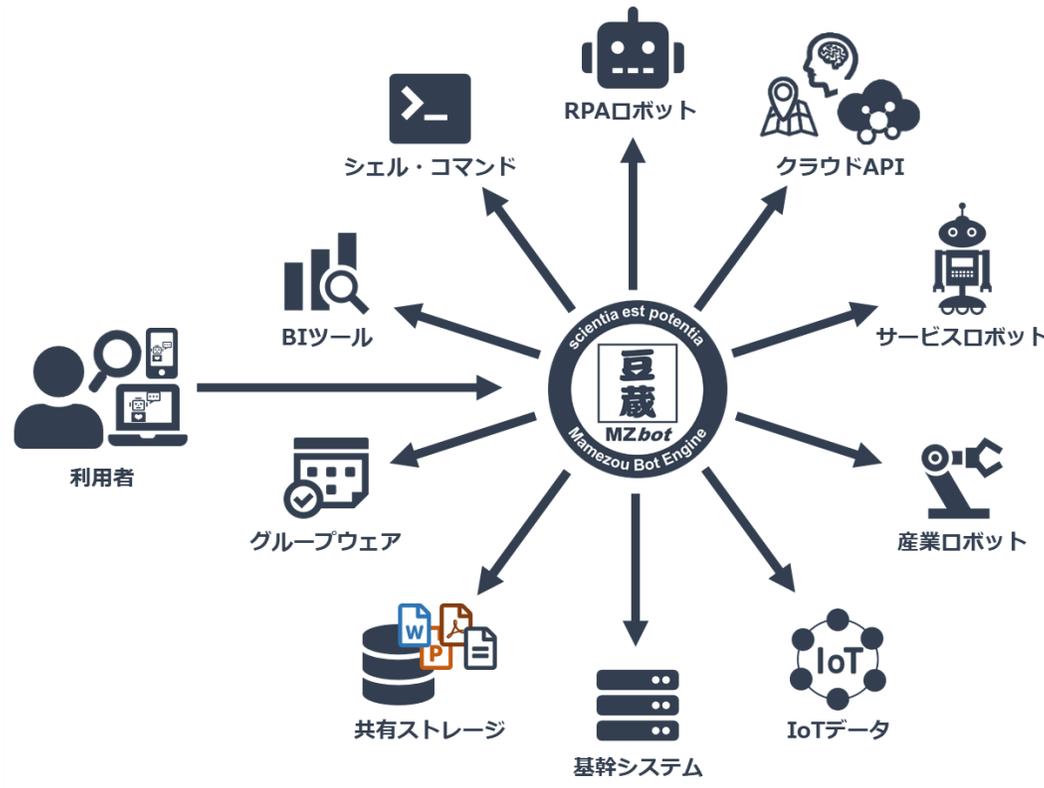
- 環境変化に適応できる自律的なキャリア形成を支援するワークショップやイベントの実施支援
- 組織内のコミュニケーション、情報共有促進機会の提供

3 DX HRDプラットフォーム

- 個人の成長を支援する教材、気づきと成長を管理する環境の提供（自律的能力獲得の窓口となる：基盤・情報・トレーナー）
- 経営・人事部門と現場の要求をつなぐ人材育成状況の可視化とロードマップ管理



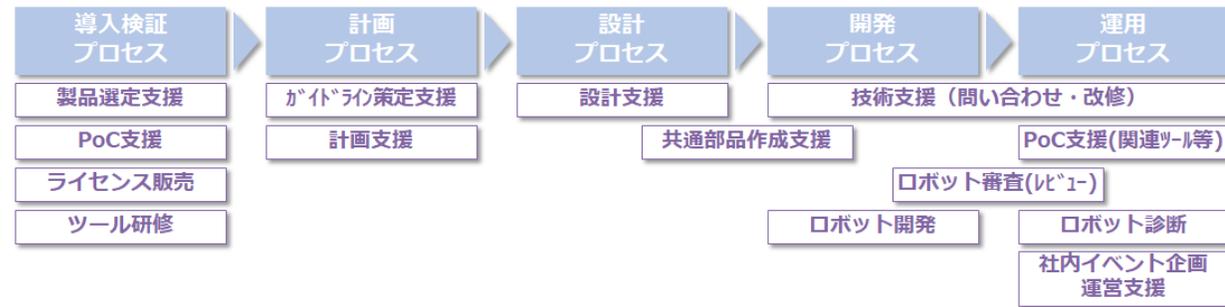
「チャットボットのその先へ。」というコンセプトで開発した『人』と『デジタル』をつなぐDXプラットフォーム



MZbotは、「RPA」「クラウドAPI」「ロボット」と連携して「人」と「デジタル」をシームレスにつなぎ、企業における情報資産の活用を促進するために開発された次世代型DXプラットフォームです

RPAで確実に効果を上げるための「すべて」をサポートします

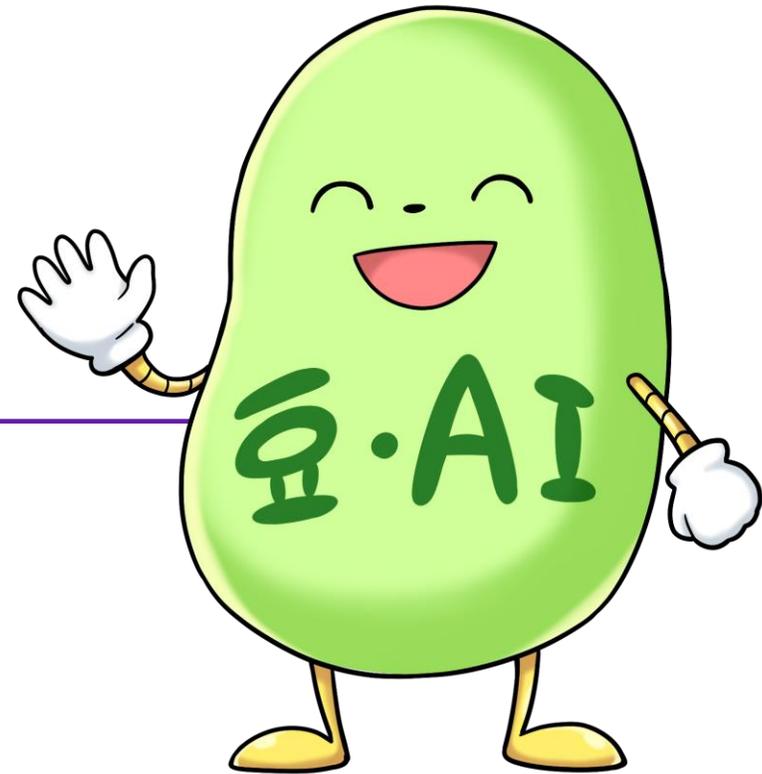
作業毎の契約や、依頼先が異なる事によるロスを抑える為に、RPAに関わる総合窓口という契約の中で、RPA導入部門からRPA管理部門まで、各プロセスにおける双方に必要な支援をワンストップでサポートします



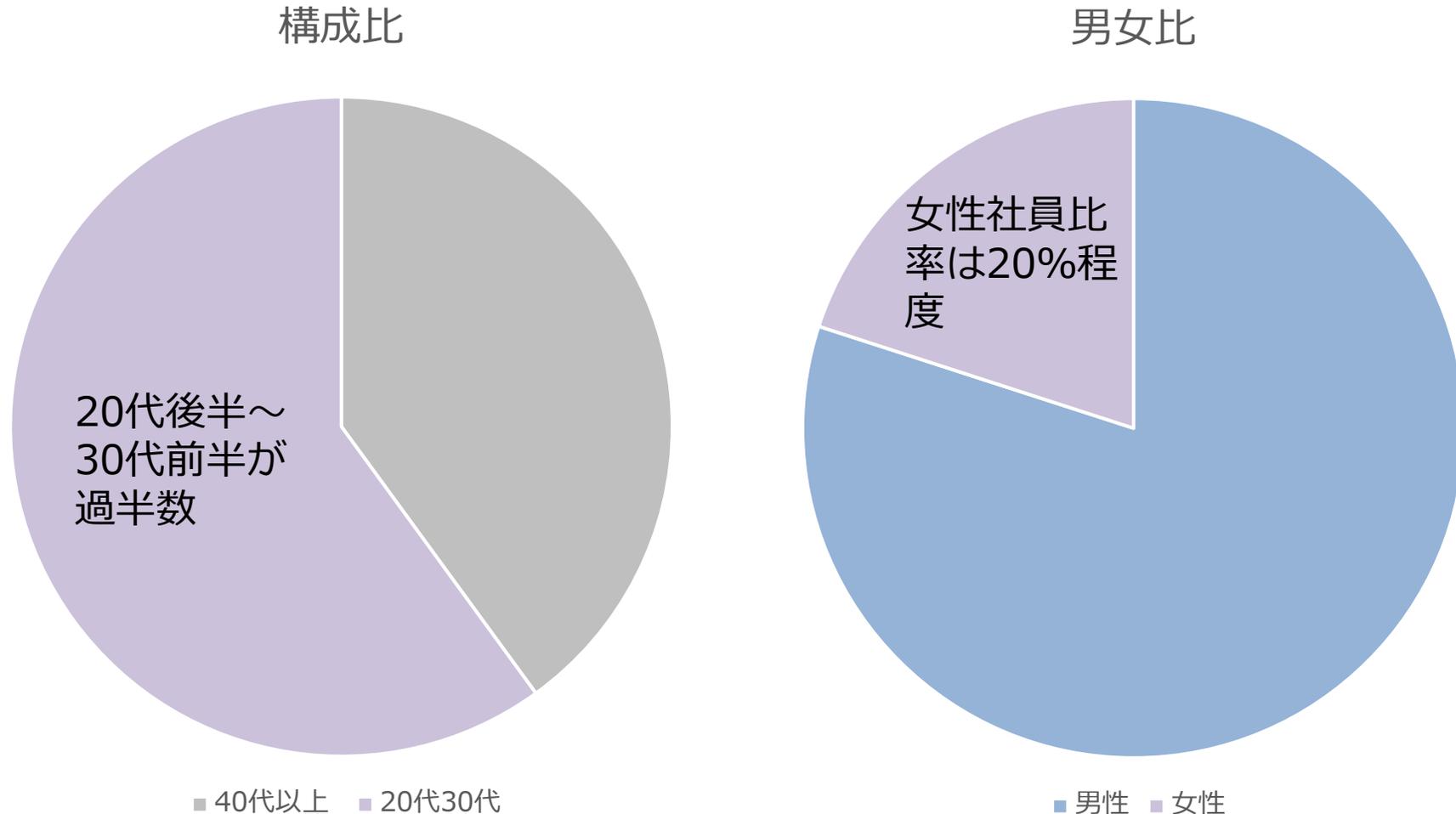
様々なRPA支援実績で蓄積したノウハウと、豆蔵が得意とする要求開発のノウハウから開発した、RPA導入時のハードル「業務フロー」に代わる、カード形式の“見える化” ツールです
業務整理（文書化）をトップダウンで行う「業務ヒアリング」ではなく、現場の方々が自ら行う「おしごとスケッチ」で、現場からの改善を促進することで、組織としての「おしごとカイゼン（業務改善）」まで昇華が可能です



デジタル戦略支援事業部の構成



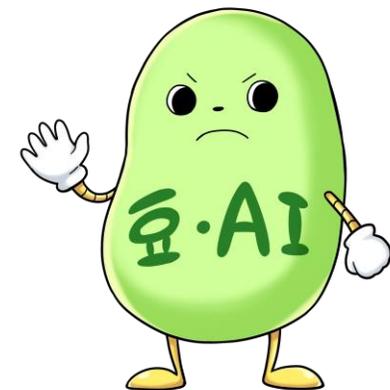
約30名超の構成メンバー
若手中心で、外国人籍2名も在籍し、多様な人材を登用しています。



デジタル戦略支援事業部メンバーの主な出身大学

- ・北海道大学
- ・東北大学
- ・会津大学
- ・宇都宮大学
- ・東京大学
- ・東京工業大学
- ・早稲田大学
- ・慶応大学
- ・法政大学
- ・日本大学
- ・千葉大学
- ・横浜国立大学
- ・情報セキュリティ大学院大学
- ・名古屋大学
- ・大阪大学
- ・和歌山大学
- ・信州大学
- ・金沢大学
- ・東京農工大学

博士卒は7名



事業が伸びる源泉

お問い合わせ先

株式会社豆蔵人事戦略本部 宛

Email:shigoto_mz@mamezou.com



技術を磨きたい方、お待ちしております

「ソフトウェア × 工学技術」で、
ワクワクする未来を。